



Cisco Unity Connection インストレーション ガイド

Release 7.x
Published August 25, 2008

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意
(www.cisco.com/jp/go/safety_warning/)をご確認ください。**

**本書は、米国シスコシステムズ発行ドキュメントの参考和訳です。
米国サイト掲載ドキュメントとの差異が生じる場合があるため、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。
また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。**

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコシステムズおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコシステムズおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコシステムズまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

CCDE, CCENT, Cisco Eos, Cisco Lumin, Cisco Nexus, Cisco StadiumVision, Cisco TelePresence, the Cisco logo, DCE, and Welcome to the Human Network are trademarks; Changing the Way We Work, Live, Play, and Learn and Cisco Store are service marks; and Access Registrar, Aironet, AsyncOS, Bringing the Meeting To You, Catalyst, CCDA, CCDP, CCIE, CCIP, CCNA, CCNP, CCSP, CCVP, Cisco, the Cisco Certified Internetwork Expert logo, Cisco IOS, Cisco Press, Cisco Systems, Cisco Systems Capital, the Cisco Systems logo, Cisco Unity, Collaboration Without Limitation, EtherFast, EtherSwitch, Event Center, Fast Step, Follow Me Browsing, FormShare, GigaDrive, HomeLink, Internet Quotient, IOS, iPhone, iQ Expertise, the iQ logo, iQ Net Readiness Scorecard, iQuick Study, IronPort, the IronPort logo, LightStream, Linksys, MediaTone, MeetingPlace, MeetingPlace Chime Sound, MGX, Networkers, Networking Academy, Network Registrar, PCNow, PIX, PowerPanels, ProConnect, ScriptShare, SenderBase, SMARTnet, Spectrum Expert, StackWise, The Fastest Way to Increase Your Internet Quotient, TransPath, WebEx, and the WebEx logo are registered trademarks of Cisco Systems, Inc. and/or its affiliates in the United States and certain other countries.

All other trademarks mentioned in this document or Website are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company.(0807R)

このマニュアルで使用している IP アドレスは、実際のアドレスを示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、および図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスが使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

Cisco Unity Connection インストレーション ガイド
Copyright © 2008 Cisco Systems, Inc.
All rights reserved.

Copyright © 2009, シスコシステムズ合同会社 .
All rights reserved.



CONTENTS

はじめに	vii
対象読者と用途	viii
表記法	viii
Cisco Unity Connection のドキュメント	ix
マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン	ix
シスコのテクニカル サポート	x
Service Request ツールの使用	x
その他の情報の入手方法	xi

CHAPTER 1

Cisco Unity Connection 7.x システムのインストールに必要なタスクの概要	1-1
Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール 用タスク リスト	1-2
パート 1 : Cisco Unity Connection サーバのインストールと設定	1-3
パート 2 : 管理者のワークステーションのセットアップ	1-3
パート 3 : 電話システム連動のセットアップ	1-3
パート 4 : システムへのユーザ データと通話管理データの入力	1-4
パート 5 : システムの機能の設定	1-6
パート 6 : ネットワーキングのセットアップ	1-7
パート 7 : ユーザのワークステーションのセットアップ	1-7
パート 8 : Cisco Unity Connection データのバックアップ	1-8
パート 9 : 教育	1-8
Connection クラスタ設定済み Cisco Unity Connection 7.x システム インストール 用タスク リスト	1-9
パート 1 : Connection パブリッシャ サーバのインストールと設定	1-10
パート 2 : 管理者のワークステーションのセットアップ	1-10
パート 3 : クラスタの設定、および Connection サブスクライバ サーバのイン ストールと設定	1-10
パート 4 : 電話システム連動のセットアップ	1-11
パート 5 : システムへのユーザ データと通話管理データの入力	1-11
パート 6 : システムの機能の設定	1-14
パート 7 : ネットワーキングのセットアップ	1-15
パート 8 : ユーザのワークステーションのセットアップ	1-16
パート 9 : Cisco Unity Connection データのバックアップ	1-16

パート 10：教育 1-16

CHAPTER 2

オペレーティングシステムと Cisco Unity Connection のインストール 2-1

インストール シナリオ 2-3

最初のノード (Connection パブリッシャ サーバ) または Connection クラス
タのない Connection サーバに DVD からソフトウェアをインストールする
2-3

後続のノード (Connection サブスクリイバ サーバ) に DVD からソフトウェ
アをインストールする 2-4

最初のノード (Connection パブリッシャ サーバ) または Connection クラス
タのない Connection サーバのインストール中にパッチを適用する 2-4

後続のサーバ (Connection サブスクリイバ サーバ) のインストール中にパッ
チを適用する 2-5

インストール前作業 2-6

重要な考慮事項 2-8

インストールに関する FAQ 2-9

インストールにはどれくらいの時間が必要ですか 2-9

どのユーザ名とパスワードを指定する必要がありますか 2-9

強力なパスワードとはどのようなものですか 2-10

このインストールでシスコがサポートしているのは、どのようなサーバで
すか 2-10

他のソフトウェアをサーバにインストールできますか 2-10

ブラウザ要件 2-11

メモリのアップグレードまたはハード ディスクの交換 (特定のサーバのみ)
2-11

ハードウェアの設定 2-15

DNS 登録の確認 2-15

インストール情報の収集 2-16

Cisco Unified Communications Answer File Generator の使用方法 2-21

インストール中のネットワーク エラーの処理 2-22

新しいオペレーティングシステムとアプリケーションのインストール 2-23

インストレーション ウィザード内の移動 2-23

インストールの開始 2-23

既存の設定情報の入力 2-26

パッチの適用 2-26

ローカル ディスクからのアップグレード 2-27

リモート サーバからのアップグレード 2-28

基本インストールの実行 2-30

最初のノードの設定 2-32

後続のノードの設定 2-33

インストール後作業 2-35

デフォルトのアプリケーション ユーザ パスワードの変更	2-35
サービスのアクティブ化	2-35
ログ ファイルの検査	2-36



はじめに

ここでは、次の内容について説明します。

- [対象読者と用途 \(P.viii\)](#)
- [表記法 \(P.viii\)](#)
- [Cisco Unity Connection のドキュメント \(P.ix\)](#)
- [マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン \(P.ix\)](#)
- [シスコのテクニカル サポート \(P.x\)](#)
- [Service Request ツールの使用 \(P.x\)](#)
- [その他の情報の入手方法 \(P.xi\)](#)

対象読者と用途

『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド』は、Cisco Unity Connection システムのインストールを担当する方を対象としています。Microsoft Exchange 電子メール メッセージ、または Exchange 予定表および連絡先情報を使用できるように設定してある場合は、Microsoft Exchange の実用知識が必要です。

表記法

表 1 『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド』の表記法

表記	説明
太字	次の場合は太字を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> キーおよびボタン名 (例:[OK]をクリックします) ユーザが入力する情報(例:[ユーザ名]ボックスに Administrator を入力します)
<> (山カッコ)	ユーザが入力するパラメータを囲むために使用します (例: ブラウザで https://<Cisco Unity Connection サーバの IP アドレス>/cuadmin にアクセスします。)
- (ハイフン)	同時に押す必要があるキーを表します (例: Ctrl-Alt-Delete を押します)
> (右向きの山カッコ)	Cisco Unity Connection の管理のナビゲーション バーで選択する順序を表します (例: Cisco Unity Connection の管理で、[連絡先]>[システム連絡先]を選択します)

『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド』では、次の表記法も使用します。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このドキュメント以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。



警告

「要注意」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。

(このマニュアルに記載されている警告の各国語版については、
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html の
 『Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection』を参照してください)

Cisco Unity Connection のドキュメント

Cisco.com 上の Cisco Unity Connection に関するドキュメントの説明と URL については、『*Documentation Guide for Cisco Unity Connection Release 7.x*』を参照してください。このドキュメントは Cisco Unity Connection に同梱されていますが、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/roadmap/7xcucdg.html から入手することもできます。



(注)

このマニュアルには、日本語化されたマニュアル名と英語版 URL が併記された箇所があります。日本語版マニュアルを参照する場合は、次の URL にアクセスしてください。

http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/index_uc_cuc.shtml

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、およびセキュリティ ガイドライン

マニュアルの入手方法、Service Request ツールの使用方法、および追加情報の収集方法については、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。『*What's New in Cisco Product Documentation*』には、シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

Really Simple Syndication (RSS) フィードとして『*What's New in Cisco Product Documentation*』に登録し、リーダアプリケーションを使用して、コンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定します。RSS フィードは無料サービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

シスコのテクニカル サポート

次の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。

<http://www.cisco.com/en/US/support/index.html>

以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。

- テクニカル サポートを受ける
- ソフトウェアをダウンロードする
- セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける
- ツールおよびリソースへアクセスする
 - Product Alert の受信登録
 - Field Notice の受信登録
 - Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索
- Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する
- トレーニング リソースへアクセスする
- TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する

Japan テクニカル サポート Web サイトでは、Technical Support Web サイト (<http://www.cisco.com/techsupport>) の、利用頻度の高い ドキュメントを日本語で提供しています。Japan テクニカル サポート Web サイトには、次の URL からアクセスしてください。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac>

Service Request ツールの使用

Service Request ツールには、次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/techsupport/servicerequest>

日本語版の Service Request ツールは次の URL からアクセスできます。

<http://www.cisco.com/jp/go/tac/sr/>

シスコの世界各国の連絡先一覧は、次の URL で参照できます。

<http://www.cisco.com/warp/public/687/Directory/DirTAC.shtml>

その他の情報の入手方法

シスコの製品、サービス、テクノロジー、ネットワークング ソリューションに関する情報について、さまざまな資料をオンラインで入手できます。

- シスコの E メール ニュースレターなどの配信申し込みについては、Cisco Subscription Center にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/offer/subscribe>
- 日本語の月刊 Email ニュースレター「Cisco Customer Bridge」については、下記にアクセスください。
http://www.cisco.com/web/JP/news/cisco_news_letter/ccb/
- シスコ製品に関する変更やアップデートの情報を受信するには、Product Alert Tool にアクセスし、プロファイルを作成して情報の配信を希望する製品を選択してください。Product Alert Tool には、次の URL からアクセスできます。
<http://tools.cisco.com/Support/PAT/do/ViewMyProfiles.do?local=en>
- 『Cisco Product Quick Reference Guide』はリファレンス ツールで、パートナーを通じて販売されている多くのシスコ製品に関する製品概要、主な機能、製品番号、および簡単な技術仕様が記載されています。『Cisco Product Quick Reference Guide』を発注するには、次の URL にアクセスしてください。
<http://www.cisco.com/go/guide>
- ネットワークの運用面の信頼性を向上させることのできる最新の専門的サービス、高度なサービス、リモート サービスに関する情報については、Cisco Services Web サイトを参照してください。Cisco Services Web サイトには、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/services>
- Cisco Marketplace では、さまざまなシスコの書籍、参考資料、マニュアル、ロゴ入り商品を提供しています。Cisco Marketplace には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/>
- DVD に収録されたシスコの技術マニュアル (Cisco Product Documentation DVD) は、Product Documentation Store で発注できます。Product Documentation Store には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/go/marketplace/docstore>
- 日本語マニュアルの DVD は、マニュアルセンターから発注できます。マニュアルセンターには下記よりアクセスください。
http://www.cisco.com/japanese/warp/public/3/jp/service/manual_j/manual_center/index.shtml
- Cisco Press では、ネットワーク、トレーニング、認定関連の出版物を発行しています。Cisco Press には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.ciscopress.com>
- 日本語のシスコプレスの情報は以下にアクセスください。
<http://www.seshop.com/se/ciscopress/default.asp>
- 『Internet Protocol Journal』は、インターネットおよびイントラネットの設計、開発、運用を担当するエンジニア向けに、シスコが発行する季刊誌です。『Internet Protocol Journal』には、次の URL からアクセスできます。
<http://www.cisco.com/ipj>
- 『What's New in Cisco Product Documentation』は、シスコ製品の最新マニュアル リリースに関する情報を提供するオンライン資料です。毎月更新されるこの資料は、製品カテゴリ別にまとめられているため、目的の製品マニュアルを見つけることができます。
<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>
- シスコの Web サイトの各国語版へは、次の URL からアクセスしてください。
http://www.cisco.com/public/countries_languages.shtml



Cisco Unity Connection 7.x システム のインストールに必要なタスクの概要

この章は、2つのタスク リストで構成されています。Cisco Unity Connection クラスタを設定するかどうかに応じて、次の適切なタスク リストを使用してください。

- [Cisco Unity Connection 7.x システム \(Connection クラスタなし\) インストール用タスク リスト \(P.1-2\)](#)
- [Connection クラスタ設定済み Cisco Unity Connection 7.x システム インストール用タスク リスト \(P.1-9\)](#)

Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト



(注) Connection クラスタを設定する場合は、P.1-9 の「[Connection クラスタ設定済み Cisco Unity Connection 7.x システム インストール用タスク リスト](#)」を参照してください。

次のハイレベル タスク リストを使用して、Connection クラスタがない Cisco Unity Connection 7.x システムを正しくインストールします。このタスクは、『*Cisco Unity Connection インストレーション ガイド*』およびその他の Cisco Unity Connection ドキュメントに記載されている詳細な手順を参照します。これらのドキュメントに従って、正しくインストールを完了してください。

このタスク リストにより Cisco Unity Connection システムを完全にインストールできます。つまり、Connection サーバのインストールと設定から、Connection システムへのユーザ データおよび通話管理データの入力、IMAP クライアントを使用したボイス メッセージへのアクセスや Connection データのバックアップなどのオプション機能のセットアップまで実行できます。

このリストは、次の 9 つのパートに分かれています。

- [パート 1 : Cisco Unity Connection サーバのインストールと設定 \(P.1-3\)](#)
- [パート 2 : 管理者のワークステーションのセットアップ \(P.1-3\)](#)
- [パート 3 : 電話システム連動のセットアップ \(P.1-3\)](#)
- [パート 4 : システムへのユーザ データと通話管理データの入力 \(P.1-4\)](#)
- [パート 5 : システムの機能の設定 \(P.1-6\)](#)
- [パート 6 : ネットワーキングのセットアップ \(P.1-7\)](#)
- [パート 7 : ユーザのワークステーションのセットアップ \(P.1-7\)](#)
- [パート 8 : Cisco Unity Connection データのバックアップ \(P.1-8\)](#)
- [パート 9 : 教育 \(P.1-8\)](#)

デジタル ネットワーキングを使用して複数の Connection 7.x サーバを接続する場合は、まずすべてのサーバでパート 1 およびパート 3 ~ 5 のタスクを実行してから、パート 6 以降のタスクに進みます (パート 2 のタスクは 1 回だけ実行する必要があります)。

タスクの中には、特定の環境だけに適用されるものがあります (その場合は注意書きがあります)。使用している環境に当てはまらないタスクは省略してください。

パート 1 : Cisco Unity Connection サーバのインストールと設定

1. 次の要件を確認します。
 - a. Cisco Unity Connection 7.x システムのシステム要件。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/requirements/7xcucsysreqs.html
の『Cisco Unity Connection 7.x システム要件』を参照してください。



注意

特定のサーバおよび Connection 7.x 設定では、メモリ アップグレードやハードディスクの交換が必要なことがあります。サーバにメモリ アップグレードやハードディスクの交換が必要かどうかを判断するには、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html で『Cisco Unity Connection Supported Platforms List』の該当するサーバの表を参照してください。

- b. 電話システム連動の要件。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html から入手可能な、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーション ガイドの「Requirements」の項を参照してください。
2. 必要に応じて、インストールする Connection の言語 (ロケール) をダウンロードします。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html で該当する『Cisco Unity Connection リリース ノート』を参照してください。
 3. Cisco Unity Connection サーバをセットアップして設定します。このマニュアルの「オペレーティングシステムと Cisco Unity Connection のインストール」の章を参照してください。
 4. 必要に応じて、Connection の言語をインストールします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/os_administration/guide/7xcucosagx.html から入手可能な、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection』の「ソフトウェア アップグレード」の章にある「ロケールのインストール」の項を参照してください。

パート 2 : 管理者のワークステーションのセットアップ

5. Cisco Unity Connection Web アプリケーションにアクセスするように、管理者のワークステーション上のブラウザを設定します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucosagx.html から入手可能な、『Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド』の「管理者ワークステーションでのブラウザの設定」の章を参照してください。
6. Real-Time Monitoring Tool ソフトウェアを管理者のワークステーションにダウンロードしてインストールします。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html から入手可能な、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド』の「Real-Time Monitoring Tool のインストールと設定」の章を参照してください。

パート 3 : 電話システム連動のセットアップ

7. Cisco Unity Connection と電話システムとの連動をセットアップします。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html から入手可能な、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーション ガイドを参照してください。
8. Cisco Unity Connection とともに出荷されるソフトウェアをすべて一緒に、安全ですぐに利用できる場所に保管します。

パート 4：システムへのユーザ データと通話管理データの入力

パート 4 の多くのタスクは、Cisco Unity Connection の管理を使用して実行します (Connection の管理へのログオンおよびその使用方法については、『システム アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection の管理へのアクセスと使用方法」の章を参照してください)。

パート 4 のタスクは、次のマニュアルの章を参照します。

- Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html)
 - Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user_mac/guide/7xcucmacx.html)
9. Connection のライセンスを入手してインストールします。『システム アドミニストレーション ガイド』の「ライセンスの管理」の章を参照してください。
 10. 次のような Cisco Unity Connection の概念をよく理解しておきます。
 - a. 通話管理。『システム アドミニストレーション ガイド』の「通話管理の概要」および「通話管理計画の作成」の章を参照してください。
 - b. 使用する場合は、Connection のカンパセーションとカスタム キーパッド マッピング ツール。『システム アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection カンパセーション」および「カスタム キーパッド マッピング ツール」の章を参照してください。
 - c. ユーザと管理者アカウント、テンプレート、サービス クラス、および役割。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のユーザと連絡先の概要」および「ユーザ アカウントを追加する前に」の章を参照してください。
 11. システム計画を立てます。
 - a. 営業時間と営業外時間、および祝日を特定する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「スケジュールと祝日の管理」の章を参照してください。
 - b. 通話管理計画を立てる。『システム アドミニストレーション ガイド』の「通話管理計画の作成」の章を参照してください。
 - c. デフォルトのパーティションとサーチ スペースを調べ、新しいパーティションとサーチ スペースが必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パーティションとサーチ スペースの管理」の章を参照してください。
 - d. デフォルトの規制テーブルを調べ、変更または新しいテーブルが必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「規制テーブルの管理」の章にある「概要：デフォルト規制テーブル」の項を参照してください。
 - e. 電話アクセスおよび Web ツール アクセスのためのパスワード ポリシーとアカウント ロックアウト ポリシー、および Web ツール アクセスのためのログオン ポリシーを決定する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パスワード、ログオン、およびロックアウトのポリシーの指定」の章を参照してください。
 - f. 必要な管理者アカウントの数とタイプ、および管理者アカウントに割り当てる役割を決定する。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ アカウントを追加する前に」の章を参照してください。
 - g. ユーザに対して有効にする機能を決定し、変更が必要かどうか、また新しいテンプレートとサービス クラスが必要かどうかを判断する。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ アカウントを追加する前に」の章を参照してください。
 - h. デフォルトのメールボックス サイズ割り当てを調べ、変更が必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「メールボックスのサイズの制御」の章にある「メールボックス サイズ使用割当量の指定」の項を参照してください。
 - i. デフォルトのメッセージ エージング ポリシーを調べ、変更が必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「メールボックスのサイズの制御」の章にある「メッセージ エージング ポリシーの変更」の項を参照してください。

- j. デフォルトのシステム同報リストを調べ、変更または新しい同報リストが必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「システム同報リストの管理」の章を参照してください。
12. カスタム キーパッド マッピング ツールを使用する場合：必要に応じて、カスタム キーパッド マッピングのコンパセーションに関連付けられているキー マッピングを編集します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「カスタム キーパッド マッピング ツール」の章を参照してください。
13. タスク 11. で調べた次のデフォルトについて、必要に応じて変更を行うかまたは新しいものを作成します。
 - a. スケジュール。『システム アドミニストレーション ガイド』の「スケジュールと祝日の管理」の章を参照してください。
 - b. パーティションとサーチ スペース。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パーティションとサーチ スペースの管理」の章を参照してください。
 - c. 規制テーブル。『システム アドミニストレーション ガイド』の「規制テーブルの管理」の章を参照してください。
 - d. パスワード ポリシー、ロックアウト ポリシー、およびログオン ポリシー。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パスワード、ログオン、およびロックアウトのポリシーの指定」の章を参照してください。
 - e. サービス クラス。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「サービス クラスの追加、修正、削除」の章を参照してください。
 - f. ユーザ テンプレート。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ テンプレートの追加、修正、削除」の章を参照してください。
 - g. メールボックス サイズ割り当て。『システム アドミニストレーション ガイド』の「メールボックスのサイズの制御」の章にある「メールボックス サイズ使用割当量の指定」の項を参照してください。
 - h. メッセージ エージング ポリシー。『システム アドミニストレーション ガイド』の「メールボックスのサイズの制御」の章にある「メッセージ エージング ポリシーの変更」の項を参照してください。
 - i. システム同報リスト。『システム アドミニストレーション ガイド』の「システム同報リストの管理」の章を参照してください。
14. システム コンフィギュレーションをテストします。
 - a. テスト アカウントとして使用する Connection ユーザ アカウントを追加する。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のアカウントの個別追加」の章を参照してください。
 - b. テスト ユーザとして電話を使用して、Connection にログオンし、名前を録音し、電話パスワードを設定する。電話を切ります。
 - c. Connection にコールし、テスト ユーザとして再度ログオンし、ユーザのパスワード、グリティング、およびガイダンスの各バージョンが正しく動作することを確認する。電話で適切な機能をテストすることで、ユーザが正しいサービス クラスを継承したことを確認します。
 - d. テスト ユーザとして Cisco Personal Communications Assistant (PCA) にログオンする。必要な COS 権限をテスト ユーザに与えた場合、Cisco PCA のホーム ページから適切な Web ツールを参照できることを確認します。
 - e. 必要に応じて、システム コンフィギュレーションを修正する。
15. Connection のユーザ データと LDAP ディレクトリのユーザ データを同期させる場合、LDAP ディレクトリと連動するように Connection を設定します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection と LDAP ディレクトリの連動」の章を参照してください。

16. 管理者アカウントを作成します。必要に応じて、『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のアカウントの個別追加」または「LDAP ユーザ データからのユーザ アカウントの作成」の章を参照してください。
17. ユーザアカウントを作成します。必要に応じて、『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のアカウントの個別追加」、「ユーザ アカウントを一括管理する」、「Cisco Unified Communications Manager のユーザからの複数のユーザ アカウントの作成」、または「LDAP ユーザ データからのユーザ アカウントの作成」の章を参照してください。
18. 必要に応じて、システム同報リストに個々のユーザを加えます。『システム アドミニストレーションガイド』の「システム同報リストの管理」の章にある「システム同報リストのメンバーの管理」の項を参照してください。
19. タスク 11.b. で作成した通話管理計画を実装し、テストします。
 - a. コールハンドラを作成する。『システム アドミニストレーションガイド』の「コールハンドラの管理」の章を参照してください。
 - b. ディレクトリハンドラの設定を指定する。『システム アドミニストレーションガイド』の「ディレクトリハンドラの管理」の章を参照してください。
 - c. インタビューハンドラを作成する。『システム アドミニストレーションガイド』の「インタビューハンドラの管理」の章を参照してください。
 - d. 着信サービスをセットアップする。『システム アドミニストレーションガイド』の「着信サービスの管理」の章を参照してください。

パート 5 : システムの機能の設定

パート 5 のほとんどのタスクは、次のマニュアルの章を参照します。

- Cisco Unity Connection システム アドミニストレーションガイド
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html)
 - Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user_mac/guide/7xcucmacx.html)
20. 任意のユーザがIMAP 電子メールクライアントを使用してConnection メッセージにアクセスまたはConnection メッセージを送信する場合: IMAP クライアントから Connection サーバへのアクセスが可能となるように設定します。『システム アドミニストレーションガイド』の「IMAP 設定値の設定」の章を参照してください。
 21. 任意のユーザが Connection Web ツールにアクセスする場合、またはIMAP 電子メールクライアントを使用して Connection メッセージにアクセスまたは Connection メッセージを送信する場合: タスク 20. で Connection への Cisco PCA アクセスおよび IMAP アクセスを保護していなければ、ここで保護を設定します。『システム アドミニストレーションガイド』の「Cisco PCA および IMAP 電子メールクライアントから Cisco Unity Connection へのアクセスの保護」の章を参照してください。
 22. 任意のユーザが予定表情報または Exchange 連絡先にアクセスする場合: 連動を設定します。『システム アドミニストレーションガイド』の「予定表連動の作成」の章を参照してください。
 23. 任意のユーザが Connection を使用して外部メッセージストアの電子メール メッセージにアクセスする場合: 外部メッセージストアへのアクセスを設定します。『システム アドミニストレーションガイド』の「外部メッセージストア内の電子メールへのアクセスの設定」の章を参照してください。
 24. ユーザがSMTP メッセージまたはSMS メッセージの到着通知デバイスを使用する場合: システムによって SMTP または SMS の到着通知メッセージが送信されるようにします。『システム アドミニストレーションガイド』の「到着通知 SMTP および SMS (SMPP) メッセージの設定」の章を参照してください。
 25. 任意のユーザが Cisco Unity Connection Phone View にアクセスする場合: Phone View 機能を設定します。『システム アドミニストレーションガイド』の「Phone View の設定」の章を参照してください。

26. 任意のユーザが Cisco Unified クライアント アプリケーションを通じて Connection ボイス メッセージにアクセスする場合：次の該当するクライアントを設定します。
 - Cisco Unified Personal Communicator の場合、『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「サービス クラスによって制御される機能の設定」の章にある「Cisco Unified Personal Communicator からのボイス メッセージへのアクセス」の項を参照してください。
 - Cisco Unified Mobile Communicator の場合、『システム アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unified Mobility Advantage との連動の作成」の章を参照してください。
 - Cisco Unified Messaging with IBM Lotus Sametime の場合、
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能な、該当する『Release Notes for Cisco Unified Messaging with IBM Lotus Sametime』を参照してください。
27. 任意のユーザがファックスにアクセスする場合：Cisco ファックス サーバとの連動を設定します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Fax Server との連動の作成」の章を参照してください。
28. 任意の管理者またはユーザが Cisco Unity Connection のブロードキャスト メッセージ管理機能にアクセスする場合：この機能をセットアップします。『システム アドミニストレーション ガイド』の「ブロードキャスト メッセージ機能の設定」の章を参照してください。
29. 任意の管理者またはユーザが Cisco Unity のグリーティング管理機能にアクセスし、電話機でグリーティングを管理する必要がある場合：この機能をセットアップします。『システム アドミニストレーション ガイド』の「録音済みのグリーティングと名前の録音の管理」の章にある「Cisco Unity グリーティング管理の設定」の項を参照してください。
30. これ以外の機能を追加するには、必要に応じて、個々のユーザ アカウント設定をカスタマイズします。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ アカウントの設定によって制御される機能の設定」および「サービス クラスによって制御される機能の設定」の章を参照してください。

パート 6：ネットワーキングのセットアップ

31. 必要に応じて、デジタル ネットワーキングをセットアップします。『システム アドミニストレーション ガイド』の「デジタル ネットワークの使用法」の章を参照してください。
32. 必要に応じて、VPIM ネットワーキングをセットアップします。『システム アドミニストレーション ガイド』の「VPIM ネットワークの使用法」の章を参照してください。

パート 7：ユーザのワークステーションのセットアップ

パート 7 のタスクは、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user_setup/guide/7xcucusx.html の

『Cisco Unity Connection ユーザ ワークステーション セットアップガイド』の章を参照します。

33. Cisco PCA へのアクセスをセットアップします。「Cisco Personal Communications Assistant へのアクセスの設定」の章を参照してください。
34. Media Master の再生および録音デバイスをセットアップします。「Media Master の再生デバイスと録音デバイスの設定」の章を参照してください。
35. Connection ボイス メッセージにアクセスするように IMAP 電子メール アカウントを設定します。「Cisco Unity Connection のボイス メッセージにアクセスするための電子メール アカウントの設定」の章を参照してください（「Microsoft Outlook でのアカウントの作成および設定」の項には、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook を設定するための説明が記載されています）。
36. ユーザに対して有効にした Connection 機能にユーザがアクセスして、その機能を使用できることを確認します。

パート 8 : Cisco Unity Connection データのバックアップ

37. http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html の『*Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection*』を参照してください。



(注) サードパーティ製のバックアップアプリケーションはサポートされていません。

パート 9 : 教育

38. ユーザ、オペレータ、およびサポート デスク担当者に Cisco Unity Connection システムの使用方を教育します。『*ユーザワークステーション セットアップガイド*』の「[ユーザのオリエンテーション](#)」および「[オペレータとサポートデスクのオリエンテーション](#)」の章を参照してください。

Connection クラスタ設定済み Cisco Unity Connection 7.x システム インストール用タスク リスト



(注)

Connection クラスタを設定しない場合は、P.1-2 の「Cisco Unity Connection 7.x システム (Connection クラスタなし) インストール用タスク リスト」を参照してください。

次のハイレベル タスク リストを使用して、Connection クラスタ設定済みの Cisco Unity Connection 7.x システムを正しくインストールします。このタスクは、『Cisco Unity Connection インストレーション ガイド』およびその他の Cisco Unity Connection ドキュメントに記載されている詳細な手順を参照します。これらのドキュメントに従って、正しくインストールを完了してください。

このタスク リストにより Cisco Unity Connection システムを完全にインストールできます。つまり、Connection サーバのインストールと設定から、Connection システムへのユーザデータおよび通話管理データの入力、IMAP クライアントを使用したボイス メッセージへのアクセスや Connection データのバックアップなどのオプション機能のセットアップまで実行できます。パブリッシャ サーバに入力した情報と設定値は、サブスクリバ サーバに複製されます。

このリストは、次の 10 のパートに分かれています。

- [パート 1 : Connection パブリッシャ サーバのインストールと設定 \(P.1-10\)](#)
- [パート 2 : 管理者のワークステーションのセットアップ \(P.1-10\)](#)
- [パート 3 : クラスタの設定、および Connection サブスクリバ サーバのインストールと設定 \(P.1-10\)](#)
- [パート 4 : 電話システム連動のセットアップ \(P.1-11\)](#)
- [パート 5 : システムへのユーザデータと通話管理データの入力 \(P.1-11\)](#)
- [パート 6 : システムの機能の設定 \(P.1-14\)](#)
- [パート 7 : ネットワーキングのセットアップ \(P.1-15\)](#)
- [パート 8 : ユーザのワークステーションのセットアップ \(P.1-16\)](#)
- [パート 9 : Cisco Unity Connection データのバックアップ \(P.1-16\)](#)
- [パート 10 : 教育 \(P.1-16\)](#)

デジタル ネットワーキングを使用して、1 つまたは複数の Connection 7.x クラスタをネットワークに接続する場合、まずクラスタを設定してからデジタル ネットワーキングをセットアップします。最初のクラスタに対しては、パート 1 ~ 6 のタスクを実行します。後続のクラスタに対しては、パート 1 およびパート 3 ~ 6 のタスクを実行します。次に、パート 7 以降のタスクに進みます。

タスクの中には、特定の環境だけに適用されるものがあります (その場合は注意書きがあります)。使用している環境に当てはまらないタスクは省略してください。

パート 1 : Connection パブリッシャ サーバのインストールと設定

1. 次の要件を確認します。
 - a. Cisco Unity Connection 7.x システムのシステム要件。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/requirements/7xcucsysreqs.html
 の『Cisco Unity Connection 7.x システム要件』を参照してください。



注意

特定のサーバおよび Connection 7.x 設定では、メモリ アップグレードやハードディスクの交換が必要なことがあります。サーバにメモリ アップグレードやハードディスクの交換が必要かどうかを判断するには、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html の『Cisco Unity Connection Supported Platforms List』の該当するサーバの表を参照してください。

- b. 電話システム連動の要件。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html から入手可能な、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーション ガイドの「Requirements」の項を参照してください。
2. 必要に応じて、インストールする Connection の言語（ロケール）をダウンロードします。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html の該当する『Cisco Unity Connection リリース ノート』を参照してください。
3. Connection パブリッシャ サーバをセットアップして設定します。このマニュアルの「オペレーティング システムと Cisco Unity Connection のインストール」の章を参照してください。
4. 必要に応じて、Connection の言語をパブリッシャ サーバにインストールします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/os_administration/guide/7xcucosagx.html から入手可能な、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド for Cisco Unity Connection』の「ソフトウェア アップグレード」の章にある「ロケールのインストール」の項を参照してください。

パート 2 : 管理者のワークステーションのセットアップ

5. Cisco Unity Connection Web アプリケーションにアクセスするように、管理者のワークステーション上のブラウザを設定します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucosagx.html から入手可能な、『Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド』の「管理者ワークステーションでのブラウザの設定」の章を参照してください。
6. Real-Time Monitoring Tool ソフトウェアを管理者のワークステーションにダウンロードしてインストールします。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_maintenance_guides_list.html から入手可能な、『Cisco Unified Real-Time Monitoring Tool アドミニストレーション ガイド』の「Real-Time Monitoring Tool のインストールと設定」の章を参照してください。

パート 3 : クラスタの設定、および Connection サブスクリバ サーバのインストールと設定

7. Cisco Unity Connection クラスタを設定します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/cluster_administration/guide/7xcucagx.html から入手可能な、『Cisco Unity Connection クラスタ コンフィギュレーション アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection クラスタの設定」の章を参照してください。
8. Connection サブスクリバ サーバをセットアップして設定します。このマニュアルの「オペレーティング システムと Cisco Unity Connection のインストール」の章を参照してください。

9. 必要に応じて、サブスクリバ サーバに Connection の言語をインストールします。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/os_administration/guide/7xcucosagx.html から入手可能な、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection』の「ソフトウェア アップグレード」の章にある「ロケールのインストール」の項を参照してください。



(注) これ以降、パブリッシャ サーバに入力した情報と設定値は、サブスクリバ サーバに複製されません。

パート 4 : 電話システム連動のセットアップ

10. パブリッシャ サーバで、Cisco Unity Connection と電話システムとの連動をセットアップします。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_installation_and_configuration_guides_list.html から入手可能な、該当する Cisco Unity Connection のインテグレーション ガイドを参照してください。
11. Cisco Unity Connection に同梱されていたソフトウェアをすべて一緒に、安全ですぐに利用できる場所に保管します。

パート 5 : システムへのユーザ データと通話管理データの入力

パート 5 の多くのタスクは、Cisco Unity Connection の管理を使用して実行します (Connection の管理へのログオンおよびその使用方法については、『Cisco Unity Connection システム アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unity Connection の管理へのアクセスと使用方法」の章を参照してください)。

パート 5 のタスクは、次のマニュアルの章を参照します。

- Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucosagx.html)
 - Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user_mac/guide/7xcucumacx.html)
 - Cisco Unity Connection クラスタ コンフィギュレーション アドミニストレーション ガイド
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/cluster_administration/guide/7xcucocagx.html)
12. Connection のライセンスを入手してインストールします。ライセンスは、パブリッシャ サーバとサブスクリバ サーバにインストールする必要があります。『システム アドミニストレーションガイド』の「ライセンスの管理」の章を参照してください。
 13. 次のような Cisco Unity Connection の概念をよく理解しておきます。
 - a. 通話管理。『システム アドミニストレーションガイド』の「通話管理の概要」および「通話管理計画の作成」の章を参照してください。
 - b. 使用する場合は、Connection のカンパセーションとカスタム キーパッド マッピング ツール。『システム アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unity Connection カンパセーション」および「カスタム キーパッド マッピング ツール」の章を参照してください。
 - c. ユーザと管理者アカウント、テンプレート、サービス クラス、および役割。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のユーザと連絡先の概要」および「ユーザ アカウントを追加する前に」の章を参照してください。

14. システム計画を立てます。

- a. 営業時間と営業外時間、および祝日を特定する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「スケジュールと祝日の管理」の章を参照してください。
- b. 通話管理計画を立てる。『システム アドミニストレーション ガイド』の「通話管理計画の作成」の章を参照してください。
- c. デフォルトのパーティションとサーチ スペースを調べ、新しいパーティションとサーチ スペースが必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パーティションとサーチ スペースの管理」の章を参照してください。
- d. デフォルトの規制テーブルを調べ、変更または新しいテーブルが必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「規制テーブルの管理」の章にある「概要：デフォルト規制テーブル」の項を参照してください。
- e. 電話アクセスおよび Web ツール アクセスのためのパスワード ポリシーとアカウント ロックアウト ポリシー、および Web ツール アクセスのためのログオン ポリシーを決定する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パスワード、ログオン、およびロックアウトのポリシーの指定」の章を参照してください。
- f. 必要な管理者アカウントの数とタイプ、および管理者アカウントに割り当てる役割を決定する。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ アカウントを追加する前に」の章を参照してください。
- g. ユーザに対して有効にする機能を決定し、変更が必要かどうか、また新しいテンプレートとサービス クラスが必要かどうかを判断する。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ アカウントを追加する前に」の章を参照してください。
- h. デフォルトのメールボックス サイズ割り当てを調べ、変更が必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「メールボックスのサイズの制御」の章にある「メールボックス サイズ使用割当量の指定」の項を参照してください。
- i. デフォルトのメッセージ エージング ポリシーを調べ、変更が必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「メールボックスのサイズの制御」の章にある「メッセージ エージング ポリシーの変更」の項を参照してください。
- j. デフォルトのシステム同報リストを調べ、変更または新しい同報リストが必要かどうかを判断する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「システム同報リストの管理」の章を参照してください。

15. カスタム キーパッド マッピング ツールを使用する場合：パブリッシャ サーバで、必要に応じて、カスタム キーパッド マッピングのキャンバセッションに関連付けられているキー マッピングを編集します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「カスタム キーパッド マッピング ツール」の章を参照してください。

16. タスク 14. で調べた次のデフォルトについて、パブリッシャ サーバで、必要に応じて変更を行うかまたは新しいものを作成します。

- a. スケジュール。『システム アドミニストレーション ガイド』の「スケジュールと祝日の管理」の章を参照してください。
- b. パーティションとサーチ スペース。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パーティションとサーチ スペースの管理」の章を参照してください。
- c. 規制テーブル。『システム アドミニストレーション ガイド』の「規制テーブルの管理」の章を参照してください。
- d. パスワード ポリシー、ロックアウト ポリシー、およびログオン ポリシー。『システム アドミニストレーション ガイド』の「パスワード、ログオン、およびロックアウトのポリシーの指定」の章を参照してください。
- e. サービス クラス。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「サービス クラスの追加、修正、削除」の章を参照してください。
- f. ユーザ テンプレート。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ テンプレートの追加、修正、削除」の章を参照してください。

- g. メールボックス サイズ割り当て。『システム アドミニストレーション ガイド』の「[メールボックスのサイズの制御](#)」の章にある「メールボックス サイズ使用割当量の指定」の項を参照してください。
- h. メッセージ エージング ポリシー。『システム アドミニストレーション ガイド』の「[メールボックスのサイズの制御](#)」の章にある「メッセージ エージング ポリシーの変更」の項を参照してください。
- i. システム同報リスト。『システム アドミニストレーション ガイド』の「[システム同報リストの管理](#)」の章を参照してください。

17. システム コンフィギュレーションをテストします。

- a. パブリッシャ サーバ上の Cisco Unity Connection Serviceability の[Cluster Management]ページで、パブリッシャ サーバのステータスがプライマリであり、サブスライバ サーバのステータスがセカンダリであることを確認する。『Cisco Unity Connection クラスタ コンフィギュレーション アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection クラスタの管理」の章を参照してください。
- b. パブリッシャ サーバで、テスト アカウントとして使用する Connection ユーザ アカウントを追加する。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「[Cisco Unity Connection のアカウントの個別追加](#)」の章を参照してください。
- c. テスト ユーザとして電話を使用して、Connection にログオンし、名前を録音し、電話パスワードを設定する。電話を切ります。
- d. Connection にコールし、テスト ユーザとして再度ログオンし、ユーザのパスワード、グリーンティング、およびガイダンスの各バージョンが正しく動作することを確認する。電話で適切な機能をテストすることで、ユーザが正しいサービス クラスを継承したことを確認します。
- e. テスト ユーザとして Cisco Personal Communications Assistant (PCA) にログオンする。必要なサービス クラス権限をテスト ユーザに与えた場合、Cisco PCA のホーム ページから適切な Web ツールを参照できることを確認します。
- f. 必要に応じて、システム コンフィギュレーションを修正する。
- g. サブスライバ サーバで、テスト ユーザおよび録音済みの名前が複製されたことを確認する。
- h. Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページで、サブスライバ サーバのステータスをプライマリに変更する。『Cisco Unity Connection クラスタ コンフィギュレーション アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection クラスタの管理」の章にある「[サーバステータスの手動変更](#)」の項を参照してください。
- i. パブリッシャ サーバ (現在はステータスがセカンダリになっている) のステータスを非アクティブに変更する。『Cisco Unity Connection クラスタ コンフィギュレーション アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection クラスタの管理」の章にある「[サーバステータスの手動変更](#)」の項を参照してください。
- j. Cisco Unity Connection にコールして、テスト ユーザとして再度ログオンし、ステータスがプライマリである場合にサブスライバ サーバにコールが正しく接続されることを確認する。ユーザのパスワード、グリーンティング、およびガイダンスのバージョンが正しく動作することを確認します。電話で適切な機能をテストすることで、ユーザが正しいサービス クラスを継承したことを確認します。
- k. テスト ユーザとして Cisco PCA にログオンする。Cisco PCA のホーム ページから適切な Web ツールを参照できることを確認します。
- l. 必要に応じて、システム コンフィギュレーションを修正する。
- m. Cisco Unity Connection Serviceability の [Cluster Management] ページで、パブリッシャ サーバをアクティブにする。『Cisco Unity Connection クラスタ コンフィギュレーション アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection クラスタの管理」の章にある「[サーバステータスの手動変更](#)」の項を参照してください。

- n. パブリッシャ サーバのステータスをプライマリに変更する。『Cisco Unity Connection クラスタ コンフィギュレーション アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection クラスタの管理」の章にある「サーバステータスの手動変更」の項を参照してください。
18. Connection のユーザ データと LDAP ディレクトリのユーザ データを同期させる場合、パブリッシャ サーバで、LDAP ディレクトリと連動するように Connection を設定します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「Cisco Unity Connection と LDAP ディレクトリの連動」の章を参照してください。
19. パブリッシャ サーバで、管理者アカウントを作成します。必要に応じて、『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のアカウントの個別追加」または「LDAP ユーザ データからのユーザ アカウントの作成」の章を参照してください。
20. パブリッシャ サーバで、ユーザ アカウントを作成します。必要に応じて、『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「Cisco Unity Connection のアカウントの個別追加」、「ユーザ アカウントを一括管理する」、「Cisco Unified Communications Manager のユーザからの複数のユーザ アカウントの作成」、または「LDAP ユーザ データからのユーザ アカウントの作成」の章を参照してください。
21. パブリッシャ サーバで、必要に応じて、システム同報リストに個々のユーザを加えます。『システム アドミニストレーション ガイド』の「システム同報リストの管理」の章にある「システム同報リストのメンバーの管理」の項を参照してください。
22. パブリッシャ サーバで、タスク 14.b. で作成した通話管理計画を実装し、テストします。
- コール ハンドラを作成する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「コール ハンドラの管理」の章を参照してください。
 - ディレクトリ ハンドラの設定を指定する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「ディレクトリ ハンドラの管理」の章を参照してください。
 - インタビュー ハンドラを作成する。『システム アドミニストレーション ガイド』の「インタビュー ハンドラの管理」の章を参照してください。
 - 着信サービスをセットアップする。『システム アドミニストレーション ガイド』の「着信サービスの管理」の章を参照してください。

パート 6：システムの機能の設定

Cisco Unity Connection システムで実行されるパート 6 のタスクでは、情報と設定値をパブリッシャ サーバに入力します。

ほとんどのタスクは、次のマニュアルの章を参照します。

- Cisco Unity Connection システム アドミニストレーション ガイド
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/administration/guide/7xcucsagx.html)
 - Cisco Unity Connection ユーザの移動、追加、変更ガイド
(http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user_mac/guide/7xcucmacx.html)
23. 任意のユーザがIMAP 電子メールクライアントを使用して Connection メッセージにアクセスまたは Connection メッセージを送信する場合：IMAP クライアントから Connection サーバへのアクセスが可能となるように設定します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「IMAP 設定値の設定」の章を参照してください。
24. 任意のユーザが Connection Web ツールにアクセスする場合、またはIMAP 電子メールクライアントを使用して Connection メッセージにアクセスまたは Connection メッセージを送信する場合：タスク 23. で Connection への Cisco PCA アクセスおよび IMAP アクセスを保護していなければ、ここで保護を設定します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「Cisco PCA および IMAP 電子メールクライアントから Cisco Unity Connection へのアクセスの保護」の章を参照してください。
25. 任意のユーザが予定表情報または Exchange 連絡先にアクセスする場合：連動を設定します。『システム アドミニストレーション ガイド』の「予定表連動の作成」の章を参照してください。

26. 任意のユーザが Connection を使用して外部メッセージストアの電子メール メッセージにアクセスする場合：外部メッセージストアへのアクセスを設定します。『システム アドミニストレーションガイド』の「外部メッセージストア内の電子メールへのアクセスの設定」の章を参照してください。
27. ユーザが SMTP メッセージまたは SMS メッセージの到着通知デバイスを使用する場合：システムによって、SMTP または SMS の到着通知メッセージが送信されるようにします。『システム アドミニストレーションガイド』の「到着通知 SMTP および SMS (SMPP) メッセージの設定」の章を参照してください。
28. 任意のユーザが Cisco Unity Connection Phone View にアクセスする場合：Phone View 機能を設定します。『システム アドミニストレーションガイド』の「Phone View の設定」の章を参照してください。
29. 任意のユーザが Cisco Unified クライアント アプリケーションを通じて Connection ボイスメッセージにアクセスする場合：該当するクライアントを設定します。
 - Cisco Unified Personal Communicator の場合、『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「サービス クラスによって制御される機能の設定」の章にある「Cisco Unified Personal Communicator からのボイスメッセージへのアクセス」の項を参照してください。
 - Cisco Unified Mobile Communicator の場合、『システム アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified Mobility Advantage との連動の作成」の章を参照してください。
 - Cisco Unified Messaging with IBM Lotus Sametime の場合、http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/prod_release_notes_list.html から入手可能な、該当する『Release Notes for Cisco Unified Messaging with IBM Lotus Sametime』を参照してください。
30. 任意のユーザがファックスにアクセスする場合：Cisco ファックス サーバとの連動を設定します。『システム アドミニストレーションガイド』の「Cisco Fax Server との連動の作成」の章を参照してください。
31. 任意の管理者またはユーザが Cisco Unity Connection のブロードキャスト メッセージ管理機能にアクセスする場合：この機能をセットアップします。『システム アドミニストレーションガイド』の「ブロードキャスト メッセージ機能の設定」の章を参照してください。
32. 任意の管理者またはユーザが Cisco Unity のグリーティング管理機能にアクセスし、電話機でグリーティングを管理する必要がある場合：この機能をセットアップします。『システム アドミニストレーションガイド』の「録音済みのグリーティングと名前の録音の管理」の章にある「Cisco Unity グリーティング管理の設定」の項を参照してください。
33. これ以外の機能を追加するには、必要に応じて、個々のユーザ アカウント設定をカスタマイズします。『ユーザの移動、追加、変更ガイド』の「ユーザ アカウントの設定によって制御される機能の設定」および「サービス クラスによって制御される機能の設定」の章を参照してください。

パート 7：ネットワーキングのセットアップ

34. 必要に応じて、パブリッシャ サーバのデジタル ネットワーキングをセットアップします。複数の Connection クラスタを接続する場合、すべてのパブリッシャ サーバでネットワーキングをセットアップします。『システム アドミニストレーションガイド』の「デジタル ネットワークの使用法」の章を参照してください。
35. 必要に応じて、パブリッシャ サーバの VPIM ネットワーキングをセットアップします。複数の Connection クラスタを接続する場合、すべてのパブリッシャ サーバでネットワーキングをセットアップします。『システム アドミニストレーションガイド』の「VPIM ネットワークの使用法」の章を参照してください。

パート 8 : ユーザのワークステーションのセットアップ

パート 8 のタスクは、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/user_setup/guide/7xcucusx.html の

『Cisco Unity Connection ユーザワークステーションセットアップガイド』の章を参照します。

36. Cisco PCA へのアクセスを設定します。「Cisco Personal Communications Assistant へのアクセスの設定」の章を参照してください。
37. Media Master の再生および録音デバイスをセットアップします。「Media Master の再生デバイスと録音デバイスの設定」の章を参照してください。
38. Connection ボイス メッセージにアクセスするように IMAP 電子メール アカウントを設定します。「Cisco Unity Connection のボイス メッセージにアクセスするための電子メール アカウントの設定」の章を参照してください（「Microsoft Outlook でのアカウントの作成および設定」の項には、Cisco Unity Connection ViewMail for Microsoft Outlook を設定するための説明が記載されています）。
39. ユーザに対して有効にした Connection 機能にユーザがアクセスして、その機能を使用できることを確認します。

パート 9 : Cisco Unity Connection データのバックアップ

40. パブリッシャ サーバでバックアップを実行します。
http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/drs_administration/guide/7xcucdrsagx.html の『Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド for Cisco Unity Connection』を参照してください。



(注) サードパーティ製のバックアップ アプリケーションはサポートされていません。

パート 10 : 教育

41. ユーザ、オペレータ、およびサポート デスク担当者に Cisco Unity Connection システムの使用方を教育します。『ユーザワークステーションセットアップガイド』の「ユーザのオリエンテーション」および「オペレータとサポート デスクのオリエンテーション」の章を参照してください。



オペレーティングシステムと Cisco Unity Connection の インストール

この章は、次の項で構成されています。

- [インストールシナリオ \(P.2-3\)](#)
 - [最初のノード \(Connection パブリッシャ サーバ\) または Connection クラスタのない Connection サーバに DVD からソフトウェアをインストールする \(P.2-3\)](#)
 - [後続のノード \(Connection サブスクリバ サーバ\) に DVD からソフトウェアをインストールする \(P.2-4\)](#)
 - [最初のノード \(Connection パブリッシャ サーバ\) または Connection クラスタのない Connection サーバのインストール中にパッチを適用する \(P.2-4\)](#)
 - [後続のサーバ \(Connection サブスクリバ サーバ\) のインストール中にパッチを適用する \(P.2-5\)](#)
- [インストール前作業 \(P.2-6\)](#)
- [重要な考慮事項 \(P.2-8\)](#)
- [インストールに関する FAQ \(P.2-9\)](#)
 - [インストールにはどれくらいの時間が必要ですか \(P.2-9\)](#)
 - [どのユーザ名とパスワードを指定する必要がありますか \(P.2-9\)](#)
 - [強力なパスワードとはどのようなものですか \(P.2-10\)](#)
 - [このインストールでシスコがサポートしているのは、どのようなサーバですか \(P.2-10\)](#)
 - [他のソフトウェアをサーバにインストールできますか \(P.2-10\)](#)
- [ブラウザ要件 \(P.2-11\)](#)
- [メモリのアップグレードまたはハードディスクの交換 \(特定のサーバのみ\) \(P.2-11\)](#)
- [ハードウェアの設定 \(P.2-15\)](#)
- [DNS 登録の確認 \(P.2-15\)](#)
- [インストール情報の収集 \(P.2-16\)](#)
- [Cisco Unified Communications Answer File Generator の使用方法 \(P.2-21\)](#)
- [インストール中のネットワーク エラーの処理 \(P.2-22\)](#)
- [新しいオペレーティングシステムとアプリケーションのインストール \(P.2-23\)](#)
 - [インストレーション ウィザード内の移動 \(P.2-23\)](#)
 - [インストールの開始 \(P.2-23\)](#)
 - [既存の設定情報の入力 \(P.2-26\)](#)
 - [パッチの適用 \(P.2-26\)](#)

- 基本インストールの実行 (P.2-30)
- 最初のノードの設定 (P.2-32)
- 後続のノードの設定 (P.2-33)
- インストール後作業 (P.2-35)
 - デフォルトのアプリケーション ユーザ パスワードの変更 (P.2-35)
 - サービスのアクティブ化 (P.2-35)
 - ログ ファイルの検査 (P.2-36)

インストール シナリオ

このマニュアルを使用して、次の各種インストール シナリオを実行できます。

- 最初のノードに DVD からソフトウェアをインストールする
- 後続のノードに DVD からソフトウェアをインストールする
- 最初のノードのインストール中にパッチを適用する
- 後続のノードのインストール中にパッチを適用する

次の項では、これらの各インストール シナリオで実行する必要があるハイレベル タスクの概要について説明します。各ハイレベル タスクには、このマニュアルの別の項へのリンクも含まれ、タスクに関する詳細情報を参照することができます。

最初のノード (Connection パブリッシャ サーバ) または Connection クラスタのない Connection サーバに DVD からソフトウェアをインストールする

クラスタ内の最初のノード (Connection パブリッシャ サーバ) または Connection クラスタのない Connection サーバに、DVD に入っているソフトウェアをインストールするには、[表 2-1](#) の手順を実行します。

表 2-1 最初のノードへの DVD からのソフトウェア インストール

	タスク	詳細情報
ステップ 1	インストール環境に応じて、すべてのインストール前作業を実行します。	インストール前作業の一覧は、 表 2-5 (P.2-6) を参照してください。
ステップ 2	手順に従って、DVD に入っているソフトウェアをサーバへインストールします。	P.2-23 の「インストールの開始」を参照してください。
ステップ 3	手順に従って、基本インストールを実行します。	P.2-30 の「基本インストールの実行」を参照してください。
ステップ 4	[First Node Configuration] ウィンドウが表示されたら、[Yes] を選択して、新しいサーバを最初のノードとして設定します。	P.2-30 の「基本インストールの実行」の ステップ 10 を参照してください。
ステップ 5	手順に従って、最初のノードを設定します。	P.2-32 の「最初のノードの設定」を参照してください。
ステップ 6	インストール環境に応じて、すべてのインストール後作業を実行します。	インストール後作業の一覧は、 表 2-10 (P.2-35) を参照してください。

■ インストールシナリオ

後続のノード (Connection サブスクリバサーバ) に DVD からソフトウェアをインストールする

Connection サブスクリバサーバに、DVD に入っているソフトウェアをインストールするには、表 2-2 の手順を実行します。

表 2-2 後続のノードへの DVD からのソフトウェア インストール

	タスク	詳細情報
ステップ 1	インストール環境に応じて、すべてのインストール前作業を実行します。	インストール前作業の一覧は、表 2-5 を参照してください。
ステップ 2	手順に従って、DVD に入っているソフトウェアをサーバへインストールします。	P.2-23 の「インストールの開始」を参照してください。
ステップ 3	手順に従って、基本インストールを実行します。	P.2-30 の「基本インストールの実行」を参照してください。
ステップ 4	[First Node Configuration] ウィンドウが表示されたら、[No] を選択して、新しいサーバを後続のノードとして設定します。	P.2-30 の「基本インストールの実行」のステップ 10 を参照してください。
ステップ 5	手順に従って、クラスタ内の後続のノードを設定します。	P.2-33 の「後続のノードの設定」を参照してください。
ステップ 6	インストール環境に応じて、すべてのインストール後作業を実行します。	インストール後作業の一覧は、表 2-10 を参照してください。

最初のノード (Connection パブリッシャサーバ) または Connection クラスタのない Connection サーバのインストール中にパッチを適用する

インストール中にパッチをダウンロードして適用し、最新のリリースにアップグレードできます。最初のノード (Connection パブリッシャサーバ) または Connection クラスタのない Connection サーバのインストール中にパッチを適用するには、表 2-3 の手順を実行します。

表 2-3 最初のノードのインストール中のパッチ適用

	タスク	詳細情報
ステップ 1	インストール環境に応じて、すべてのインストール前作業を実行します。	インストール前作業の一覧は、表 2-5 を参照してください。
ステップ 2	手順に従って、DVD に入っているソフトウェアをサーバへインストールします。	P.2-23 の「インストールの開始」を参照してください。
ステップ 3	手順に従って、ソフトウェアパッチを適用します。	P.2-26 の「パッチの適用」を参照してください。
ステップ 4	手順に従って、基本インストールを実行します。	P.2-30 の「基本インストールの実行」を参照してください。
ステップ 5	[First Node Configuration] ウィンドウが表示されたら、[Yes] を選択して、新しいサーバを最初のノードとして設定します。	P.2-30 の「基本インストールの実行」のステップ 10 を参照してください。
ステップ 6	手順に従って、クラスタ内の最初のノードを設定します。	P.2-32 の「最初のノードの設定」を参照してください。
ステップ 7	インストール環境に応じて、すべてのインストール後作業を実行します。	インストール後作業の一覧は、表 2-10 を参照してください。

後続のサーバ (Connection サブスクリバサーバ) のインストール中にパッチを適用する

インストール中にパッチをダウンロードして適用し、最新のリリースにアップグレードできます。Connection サブスクリバサーバのインストール中にパッチを適用するには、表 2-4 の手順を実行します。

表 2-4 後続のノードのインストール中のパッチ適用

	タスク	詳細情報
ステップ 1	インストール環境に応じて、すべてのインストール前作業を実行します。	インストール前作業の一覧は、表 2-5 を参照してください。
ステップ 2	手順に従って、DVD に入っているソフトウェアをサーバへインストールします。	P.2-23 の「インストールの開始」を参照してください。
ステップ 3	手順に従って、ソフトウェアパッチを適用します。	P.2-26 の「パッチの適用」を参照してください。
ステップ 4	手順に従って、基本インストールを実行します。	P.2-30 の「基本インストールの実行」を参照してください。
ステップ 5	[First Node Configuration] ウィンドウが表示されたら、[No] を選択して、新しいサーバを後続のノードとして設定します。	P.2-30 の「基本インストールの実行」のステップ 10 を参照してください。
ステップ 6	手順に従って、クラスタ内の後続のノードを設定します。	P.2-33 の「後続のノードの設定」を参照してください。
ステップ 7	インストール環境に応じて、すべてのインストール後作業を実行します。	インストール後作業の一覧は、表 2-10 を参照してください。

インストール前作業

表 2-5 に、Cisco Unity Connection のインストールを確実に成功させるために実行する必要があるインストール前作業の一覧を示します。

表 2-5 インストール前作業


	タスク	注意事項
ステップ 1	このマニュアルをすべて読んで、インストール手順をよく理解しておきます。	
ステップ 2	メーカーが提供するユーティリティを実行して、すべての新しいサーバハードウェア(ハードドライブやメモリなど)の完全性を確認します。	
ステップ 3	サーバが、サポート対象ハードウェアとして記載され、クラスタの負荷をサポートするのに適した規模であることを確認します。	サーバモデルの容量については、 http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html の『Cisco Unity Connection Supported Platforms List』を参照してください。 初期システム設定以降に発生する増加分を必ず考慮してください。
ステップ 4	システム時刻を NTP サーバから取得する場合、後続のノードをインストールする前に、最初のノードが NTP サーバと同期できることを確認してください。 最初のノードの NTP ステータスを確認するには、最初のノードのコマンドライン インターフェイスにログインし、次のコマンドを入力します。 <code>utils ntp status</code>	詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。  注意 最初のノードが NTP サーバとの同期に失敗した場合は、後続のノードのインストールも失敗する可能性があります。
ステップ 5	ファイアウォールがルーティングパスにない場合は、可能であれば、ノード間のファイアウォールを無効にします。また、インストールが完了するまで、ファイアウォールのタイムアウト設定値を大きくします。	ノード間のネットワークトラフィックの送受信の一時的な許可(これらのノードのファイアウォールルールを <code>IP any/any</code> に設定するなど)では、必ずしも十分ではありません。タイムアウトによって、ノード間の必要なネットワークセッションをファイアウォールがクローズすることもあります。
ステップ 6	Cisco Unity Connection ノード間でネットワークアドレス変換(NAT)またはポートアドレス変換(PAT)を実行しないでください。	
ステップ 7	新しいサーバに接続するスイッチポートのネットワークインターフェイスカード(NIC)速度と二重設定を記録します。 サーバとスイッチポートで同一のNIC設定値を設定する必要があります。GigE(1000/FULL)の場合、NICとスイッチポートの設定値をAuto/Autoに設定する必要があります。ハード値を設定しないでください。	ネットワーク耐障害性を使用している場合、交換時にネットワーク耐障害性設定は失われます。アップグレード後に、各サーバでネットワーク耐障害性を設定する必要があります。 シスコのサーバに接続するすべてのスイッチポートでPortFastを有効にします。Portfastが有効になっていると、転送の遅延(スパンニングツリープロトコル(STP)のラーニング状態およびリスニング状態から転送状態に変わるまでにポートが待機する時間)をなくすことによって、スイッチはポートを即座にブロック状態から転送状態にします。

表 2-5 インストール前作業（続き）

	タスク	注意事項
ステップ 8	DNS を使用する場合、Cisco Unity Connection のインストールを計画しているすべてのサーバが DNS に正しく登録されていることを確認します。	詳細については、P.2-15 の「DNS 登録の確認」を参照してください。
ステップ 9	インストールを計画している各サーバの設定を記録します。	設定を記録するには、表 2-8 を参照してください。
ステップ 10	後続のノードをインストールする前に、最初のノード上にある後続のノードをすべて設定します。	最初のノードの Cisco Unified Communications Manager の管理から、[システム (System)] > [サーバ (Server)] の順に選択して、後続のノードの IP アドレスを設定します。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド』を参照してください。

重要な考慮事項

インストールを開始する前に、次の要件および推奨事項を考慮してください。

- 既存のサーバにインストールすると、ハードドライブがフォーマットされ、そのドライブの既存データがすべて上書きされます。
- 各 Cisco Unity Connection ノードを必ず無停電電源装置 (UPS) に接続して、バックアップ電源を提供し、システムを保護します。UPS に接続していないと、物理メディアが損傷を受け、新規インストールが必要になる可能性があります。
- Connection クラスタをインストールする場合、まず最初のノード (パブリッシャ サーバ) に Cisco Unity Connection ソフトウェアをインストールしてから、後続のノード (サブスクライバ サーバ) にインストールします。
- Connection クラスタをインストールする場合、インストール中にサブスクライバサーバがパブリッシャサーバに接続できることを確認してください。
- 最初のノードでセキュリティ パスワードを入力するとき、必ず書き留めて保存してください。クラスタ内でインストールする後続の各ノードに、同一のパスワードを入力する必要があります。中断による影響を避けるため、オフピーク時またはメンテナンス時にソフトウェアをインストールします。
- クラスタ内のパブリッシャサーバとサブスクライバサーバは、同一リリースの Cisco Unity Connection を実行する必要があります。クラスタソフトウェアのアップグレード中だけは例外で、一時的な不一致が許容されます。
- スタティック IP アドレッシングを使用してサーバを設定することで、サーバに確実に固定 IP アドレスが割り当てられるようにします。
- インストール中は、どの設定作業も実行しないでください。
- インストールが完了するまでは、シスコで検証済みのどのアプリケーションもインストールしないでください。
- インストールプログラム実行中に入力するディレクトリ名およびファイル名は、大文字と小文字を区別することに注意してください。
- 160 GB SATA ディスクドライブを持つサーバモデル 7825 I3 でのディスクミラーリングには、約 3 時間かかります。
- 250 GB SATA ディスクドライブを持つサーバモデル 7828 I3 でのディスクミラーリングには、約 4 時間かかります。
- インストールを開始する前に、手順の説明を十分に注意して読んでください。

インストールに関する FAQ

この項では、頻繁に寄せられる質問とそれに対する回答を紹介します。インストールを開始する前に、この項の内容を十分に確認してください。

インストールにはどれくらいの時間が必要ですか

インストール前およびインストール後の作業を除く、インストール プロセス全体には、サーバタイプによって 45 ~ 90 分かかります。

どのユーザ名とパスワードを指定する必要がありますか



(注)

システムはパスワードの強度をチェックします。強力なパスワードの作成に関するガイドラインについては、[P.2-10](#)の「[強力なパスワードとはどのようなものですか](#)」を参照してください。

インストールでは、次のユーザ名とパスワードの指定が必要です。

- 管理者アカウントのユーザ名とパスワード
- アプリケーション ユーザ名とパスワード
- セキュリティ パスワード

管理者アカウントのユーザ名とパスワード

管理者アカウントのユーザ名とパスワードは、次の領域にログインするために使用します。

- Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理
- Disaster Recovery System
- コマンドライン インターフェイス

管理者アカウントのユーザ名とパスワードを指定するには、次のガイドラインに従います。

- 管理者アカウントのユーザ名：管理者アカウントのユーザ名は、英文字で始まる必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。
- 管理者アカウントのパスワード：管理者アカウントのパスワードは、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。

コマンドライン インターフェイスを使用すると、管理者アカウントのパスワードを変更したり、新しい管理者アカウントを追加したりできます。詳細については、『*Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。

アプリケーション ユーザ名とパスワード

アプリケーション ユーザ名とパスワードは、システムにインストールされたアプリケーションにアクセスするために使用します。たとえば、次の領域へのアクセスに使用します。

- Cisco Unified Serviceability
- Real-Time Monitoring Tool

アプリケーション ユーザ名とパスワードを指定するには、次のガイドラインに従います。

- アプリケーション ユーザ名：アプリケーション ユーザ名は、英文字で始まる必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。

- アプリケーション ユーザのパスワード：アプリケーション ユーザのパスワードは、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。

コマンドライン インターフェイスを使用すると、アプリケーション ユーザ名とパスワードを変更できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Operating System アドミニストレーションガイド』を参照してください。

セキュリティ パスワード

クラスタが設定されている場合、このパスワードによって、Connection がパブリッシャ サーバとサブスクライバ サーバ間の通信を認証します。このパスワードは、パブリッシャ サーバとサブスクライバ サーバで必ず同一である必要があります。

セキュリティ パスワードは、6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。

強力なパスワードとはどのようなものですか

インストール ウィザードは、強力なパスワードが入力されたかどうかを確認します。強力なパスワードを作成するには、次の推奨事項に従います。

- 大文字と小文字を混在させる。
- 文字と数字を混在させる。
- ハイフンと下線を含める。
- 長いパスワードは短いパスワードに比べて強力であり、安全である。

次のタイプのパスワードは避けてください。

- 数字と組み合わせる場合でも、固有名詞や辞書にある単語などのわかりやすい単語を使用しない。
- わかりやすい単語を逆にしない。
- aaabbb、qwerty、zyxwvuts、123321 などの単語または数字のパターンを使用しない。
- 他の言語のわかりやすい単語を使用しない。
- 誕生日、郵便番号、子供やペットの名前など、あらゆる種類の個人情報を使用しない。

このインストールでシスコがサポートしているのは、どのようなサーバですか

サポート対象のサーバについては、

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html の『Cisco Unity Connection Supported Platforms List』を参照してください。

他のソフトウェアをサーバにインストールできますか

ソフトウェアのインストールおよびアップグレードはすべて、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理を使用して行う必要があります。アップロードおよび処理できるのは、シスコシステムズが承認したソフトウェアだけです。承認されていないサードパーティ製または Windows ベースのソフトウェア アプリケーションは、インストールや使用ができません。

ブラウザ要件

Cisco Unified Serviceability、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理、および Disaster Recovery System には、次のブラウザでアクセスできます。

- Microsoft Internet Explorer バージョン 6.x またはバージョン 7.x
- Netscape Navigator バージョン 7.1 以降

Cisco Unity Connection の管理および Cisco Unity Connection Serviceability にアクセスするための最新のブラウザ要件については、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/requirements/7xcucsysreqs.html から入手可能な、『Cisco Unity Connection システム要件』の「ソフトウェア要件：管理者ワークステーション」の項を参照してください。

シスコは、本書または『システム要件』に記載されている以外のブラウザをサポートまたはテストしていません。

メモリのアップグレードまたはハードディスクの交換（特定のサーバのみ）



(注)

メモリのアップグレードまたはハードディスクの交換を必要としないサーバを使用する場合、この項は省略してください。

既存の Cisco Unity Connection システムをバージョン 7.x にアップグレードし、ユーザデータとボイスメッセージを保持する場合は、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html の

『Cisco Unity Connection リコンフィギュレーションアップグレードガイド Release 7.x』の該当する章を参照してください。

Cisco Unity Connection との使用が認定されているサーバの中には、次のことが必要なものがあります。

- あらゆる設定で Connection 7.x を実行するためのメモリアップグレード。
- 音声認識とデジタル ネットワーキングの両方が設定されている場合、指定された数の Connection ユーザをサポートするためのメモリアップグレード。
- Connection クラスタをサポートするためのハードディスクの交換。

http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html の『Cisco Unity Connection Supported Platforms List』の該当するサーバの表を参照してください。



警告

オン/オフスイッチのあるシステムで作業を始める場合は、はじめに電源スイッチをオフにし、電源コードのプラグを抜いてください。ステートメント 1



警告

シャーシを開ける前に、TNV (Telephone Network Voltage; 電話網電圧) に接触しないように電話網ケーブルの接続を切ります。ステートメント 2

■ メモリのアップグレードまたはハードディスクの交換 (特定のサーバのみ)

**警告**

この装置の設置およびメンテナンス作業は、AS/NZS 3260 の 1.2.14.3 条に定義されているサービス要員が行う必要があります。ステートメント 88

**警告**

この手順を行う際には、ESD によるカードの損傷を防ぐため、静電気防止用リストストラップを着用してください。電気ショックを防ぐために、装置の背面を直接手や金属で触らないようにします。ステートメント 94

**警告**

保護カバーは製品に不可欠な部品です。保護カバーを取り付けずに装置を動作させないでください。保護カバーを取り付けずに装置を動作させると、安全認可が無効になり、火災や感電のリスクが生じます。ステートメント 117

**警告**

雷が発生しているときは、システムに手を加えたり、ケーブルの接続や取り外しを行わないでください。ステートメント 1001

**警告**

必ず設置手順を読んでから、システムを電源に接続してください。ステートメント 1004

**警告**

この装置をラックに設置したり保守作業を行ったりするときは、人身事故を防ぐため、システムが安定しているかどうかを十分に確認する必要があります。次の注意事項に従ってください。

- ラックにこの装置を単独で設置する場合は、ラックの一番下に設置します。
- ラックに別の装置がすでに設置されている場合は、最も重量のある装置を一番下にして、重い順に下から上へ設置します。
- ラックに安定器具が付属している場合は、その安定器具を取り付けてから、装置をラックに設置するか、またはラック内の装置の保守作業を行ってください。ステートメント 1006

**警告**

不適切なバッテリーに交換すると、爆発の危険性があります。製造元が推奨するものと同じまたは同等のバッテリーだけを使用してください。使用済みバッテリーは、製造元が指示する方法に従って処分してください。ステートメント 1015

**警告**

この装置は立ち入り制限区域内に設置することが前提になっています。立ち入り制限区域とは、鍵、錠、またはその他の保全手段を使用しないと立ち入ることができない区域です。ステートメント 1017

**警告**

感電事故を防ぐため、Safety Extra-low Voltage (SELV) 回路を Telephone-Network Voltage (TNV; 電話網電圧) 回路に接続しないでください。LAN ポートには SELV 回路、WAN ポートには TNV 回路が使用されています。LAN ポートおよび WAN ポートによっては、どちらも RJ-45 コネクタが使用されている場合があります。ケーブルを接続するときは注意してください。ステートメント 1021

**警告**

火災の危険性を抑えるため、No. 26 AWG 以上の通信回線コードだけを使用してください。ステートメント 1023

**警告**

この装置はアース接続する必要があります。アース導体を破損しないよう注意し、アース導体を正しく取り付けないまま装置を稼働させないでください。アース接続が適正であるかどうかわからない場合には、電気検査機関または電気技術者に相談してください。ステートメント 1024

**警告**

ブランクの前面プレートおよびカバー パネルは、3つの重要な役割を果たします。シャーシ内部の危険な電圧および電流に接触しないように防御の役割を果たします。他の機器に悪影響を与える EMI (電磁干渉) を外に出しません。さらに、シャーシ全体に冷却用の空気を流します。カード、前面プレート、前面カバー、および背面カバーがすべて取り付けられてから、システムを稼働させてください。ステートメント 1029

**警告**

この装置の設置、交換、保守は、訓練を受けた相応の資格のある人が行ってください。ステートメント 1030

**警告**

この製品を廃棄処分する際は、各国の法律および規制に従って取り扱ってください。ステートメント 1040

(これらの安全警告の翻訳は、

http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/connection/regulatory/compliance/ucwarns.html にある

『Regulatory Compliance and Safety Information for Cisco Unity Connection』を参照してください。)

■ メモリのアップグレードまたはハード ディスクの交換 (特定のサーバのみ)

メモリをアップグレードまたはハード ディスクを交換するには (特定のサーバのみ)

ステップ 1 カバーを取り外します。

ステップ 2 メモリをアップグレードしない場合は、[ステップ 3](#)に進みます。

『Cisco Unity Connection Supported Platforms List』に記載されているサーバ モデルに従って、適切なスロットまたは位置にメモリ モジュールを取り付けます。



注意 新しいメモリ モジュールを間違ったスロットに取り付けると、モジュールが取り付けられたことをサーバとオペレーティング システムが認識できず、Cisco Unity Connection のパフォーマンスが低下する可能性があります。

ステップ 3 ハード ディスクを交換しない場合は、[ステップ 4](#)に進みます。



注意 ハード ディスクを交換する場合は、既存のハード ディスクを取り外し、同じ数のハード ディスクを取り付ける必要があります。ハード ディスクの数が異なると、Cisco Unity Connection のインストールは失敗します。

次のようにハード ディスクを交換します。

- a. どのハード ディスクがどのハードディスク スロットにあるかなど、サーバ内のハード ディスクの現在の位置を書き留めます。交換が失敗し、現在の設定に戻す場合は、既存のハード ディスクを現在の位置に戻す必要があります。
- b. ドライブトレイをサーバから取り外します。
- c. 古いハード ディスクをドライブトレイから取り外します。
- d. 新しいハード ディスクをドライブトレイに挿入します。
- e. 手順 a. で書き留めた位置にドライブトレイを再度取り付けます。

ステップ 4 カバーを再度取り付けます。

ハードウェアの設定

ソフトウェアのインストールと同時に、システム インストーラは、新しいオペレーティング システムおよび Cisco Unity Connection 用に、システムの BIOS および RAID の設定値を設定します。インストール中に設定される BIOS 設定値については表 2-6 を、RAID 設定値については表 2-7 を参照してください。




(注)

インストール中にハードウェア設定プロセスが失敗した場合は、IBM サーバと HP サーバの両方にあるブート時ユーティリティを使用して、表 2-6 および表 2-7 に示す RAID と BIOS の設定値を手動で設定できます。

表 2-6 HP サーバおよび IBM サーバの BIOS 設定値

HP サーバ	IBM サーバ
OS Selection : Linux (新しいモデルには適用されません)	OS Selection : 適用されません
Boot order : CD, C:, Floppy	Boot order : CD, C:, Floppy
Post F1 prompt : Delayed	Post F1 prompt : Delayed
Hyperthreading : Enabled	Hyperthreading : Enabled

表 2-7 RAID 設定値

MCS 7825 サーバ (HP および IBM)	MCS 7835 サーバ (HP および IBM)	MCS 7845 サーバ (HP および IBM)
Software RAID	Logical drives : 1	Logical drives : 2
Software RAID	RAID type : 1(1+0)	RAID type : 1(1+0)
 (注) HP 7825H1 および IBM 7825I1 では、SATA RAID が有効、RAID タイプが 1(1+0)、論理ドライブが 1 です。		

DNS 登録の確認

DNS を使用する場合は、次の手順で、追加するすべてのサーバが DNS に正しく登録されていることを確認します。

手順

ステップ 1 コマンド プロンプトを開きます。

ステップ 2 ping *DNS_name* と入力して、DNS 名で各サーバに ping を実行します。

ステップ 3 nslookup *IP_address* と入力して、IP アドレスで各サーバをルックアップします。

インストール情報の収集

表 2-8 を使用して、サーバに関する情報を記録します。Connection クラスタのない Connection サーバ、またはクラスタ内にインストールする各 Connection サーバに関して、この情報を収集します。すべての情報を取得する必要はありません。ご使用のシステムおよびネットワークの設定に関連のある情報だけを収集します。この表をコピーして、個々の表に各サーバの入力値を記録する必要があります。



(注)

一部のフィールドは省略可能で、設定に適用されないことがあります。たとえば、インストール中に SMTP ホストを設定しない場合、パラメータは表示され続けますが、値を入力する必要はありません。



注意

一部のフィールドはインストール後に変更できません。変更するにはソフトウェアの再インストールが必要になります。正しい値を入力してください。

表の右端の列は、インストール後にフィールドを変更できるかどうかを示します。変更できる場合、適切なコマンドラインインターフェイス (CLI) コマンドを記載しています。

表 2-8 ノード設定データ


パラメータ	説明	インストール後に値を変更できるか
Administrator ID 入力値 :	このフィールドには、CLI へのセキュア シェル アクセスに使用する管理者アカウントのユーザ ID を指定します。この ID は、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理および Disaster Recovery System にログインするために使用されます。	いいえ。インストール後に入力値を変更することはできません。  (注) インストール後に、管理者アカウントを追加作成できますが、元の管理者アカウントのユーザ ID を変更することはできません。
Administrator Password 入力値 :	このフィールドには、CLI へのセキュア シェル アクセスに使用する管理者アカウントのパスワードを指定します。このパスワードは、Cisco Unified Communications オペレーティング システムの管理および Disaster Recovery System にログインするために使用されます。 パスワードは 6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > set password admin
Application User Name 入力値 :	Cisco Unity Connection の管理や Cisco Unity Connection Serviceability など、システムにインストールされているアプリケーションのデフォルトのユーザ名として、アプリケーション ユーザ名を使用します。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > utils reset_ui_administrator_name

表 2-8 ノード設定データ (続き)

パラメータ	説明	インストール後に値を変更できるか
Application User Password 入力値 :	Cisco Unity Connection の管理や Cisco Unity Connection Serviceability など、システムにインストールされているアプリケーションのデフォルトのパスワードとして、アプリケーション ユーザ パスワードを使用します。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > <code>utils reset_ui_administrator_password</code>
Country 入力値 :	インストールする適切な国を一覧から選択します。  (注) 入力した値は、証明書署名要求 (CSR) の生成に使用されます。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > <code>set web-security</code>
DHCP 入力値 :	DHCP を使用してサーバのネットワーク設定値を自動的に設定する場合は、[Yes] を選択します。 [Yes] を選択した場合は、DNS または固定の設定の入力を要求されません。 [No] を選択した場合は、ホスト名、IP アドレス、IP マスク、およびゲートウェイを入力する必要があります。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > <code>set network dhcp</code>
DNS Enable 入力値 :	DNS サーバは、ホスト名を IP アドレスに、または IP アドレスをホスト名に解決します。DNS サーバがない場合は、[No] を入力します。 DNS サーバがある場合は、[Yes] を入力して DNS を有効にすることを推奨します。  (注) DNS が有効でない場合は、すべてのネットワーク デバイスに対して IP アドレスのみ (ホスト名ではなく) を入力してください。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > <code>set network dns</code>
DNS Primary 入力値 :	プライマリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。IP アドレスは、ddd.ddd.ddd.ddd のドット付き 10 進数形式で入力します。 DNS を [Yes] に設定した場合 (DNS 有効) このフィールドは必須です。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > <code>set network dns</code>
DNS Secondary (オプション) 入力値 :	オプションのセカンダリ DNS サーバとして指定する DNS サーバの IP アドレスを入力します。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > <code>set network dns</code>

表 2-8 ノード設定データ (続き)


パラメータ	説明	インストール後に値を変更できるか
Domain 入力値:	このフィールドは、このマシンが属するドメインの名前を表します。 DNS を [Yes] に設定した場合、このフィールドは必須です。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > set network domain
Gateway Address 入力値:	ネットワーク ゲートウェイの IP アドレスを入力します。 ゲートウェイがない場合でも、このフィールドに 255.255.255.255 を指定する必要があります。ゲートウェイがない場合、通信対象が同じサブネットのデバイスに制限される可能性があります。 DHCP を [No] に設定した場合、このフィールドは必須です。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > set network gateway
Hostname 入力値:	サーバで一意的なホスト名を入力します。 ホスト名は最大 64 文字で、英数字とハイフンを使用できます。 DHCP を [No] に設定した場合、このフィールドは必須です。	はい。インストール後に入力値を変更できません。 詳細については、 http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html から入手可能な、『Cisco Unity Connection リコンフィギュレーション アップグレード ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x サーバの名前の変更」の章を参照してください。
IP Address 入力値:	サーバの IP アドレスを入力します。 DHCP を [No] に設定した場合、このフィールドは必須です。	はい。インストール後に入力値を変更できません。 詳細については、 http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_connection/7x/upgrade/guide/7xcucrugx.html から入手可能な、『Cisco Unity Connection リコンフィギュレーション アップグレード ガイド Release 7.x』の「Cisco Unity Connection 7.x サーバの IP アドレスの変更」の章を参照してください。
IP Mask 入力値:	このマシンの IP サブネット マスクを入力します。 DHCP を [No] に設定した場合、このフィールドは必須です。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > set network ip eth0
Location 入力値:	サーバの適切なロケーションを選択します。  (注) 入力した値は、証明書署名要求 (CSR) の生成に使用されます。	はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。 CLI > set web-security

表 2-8 ノード設定データ (続き)





パラメータ	説明	インストール後に値を変更できるか
MTU Size 入力値 :	<p>最大伝送ユニット (MTU) は、このホストがネットワーク上で伝送する最大パケットをバイト単位で表します。</p> <p>ネットワークの MTU サイズをバイト単位で入力します。ネットワークの MTU 設定値がわからない場合は、デフォルト値を使用してください。</p> <p>デフォルト : 1500 バイト</p> <p>MTU 設定値は、クラスタ内のすべてのノードで同一である必要があります。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > set network mtu</p>
NIC Duplex 入力値 :	<p>ネットワーク インターフェイス カード (NIC) の二重モードを Full または Half から選択します。</p> <p> (注) このパラメータが表示されるのは、自動ネゴシエーションの使用を選択していない場合のみです。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > set network nic</p>
NIC Speed 入力値 :	<p>NIC の速度を 1 秒あたり 10 メガビット、または 1 秒あたり 100 メガビットから選択します。</p> <p> (注) このパラメータが表示されるのは、自動ネゴシエーションの使用を選択していない場合のみです。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > set network nic</p>
NTP Server 入力値 :	<p>同期対象の 1 つまたは複数のネットワーク タイム プロトコル (NTP) サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。</p> <p> (注) 最大 5 つの NTP サーバを入力できます。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > utils ntp config</p>
Organization 入力値 :	<p>組織名を入力します。</p> <p> (注) 入力した値は、証明書署名要求 (CSR) の生成に使用されます。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > set web-security</p>

表 2-8 ノード設定データ (続き)

パラメータ	説明	インストール後に値を変更できるか
Security Password 入力値 :	<p>クラスタ内のサーバは、セキュリティ パスワードを使用して相互に通信します。</p> <p>パスワードには、6 文字以上の英数字を使用する必要があります。ハイフンと下線を使用できますが、先頭は英数字にする必要があります。</p> <p> (注) このパスワードを保存してください。クラスタ内の各後続ノードに、同じセキュリティ パスワードを入力するように要求されます。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > set password security</p> <p> 注意 ノード間の通信が失われないようにするには、クラスタ内のすべてのノードでセキュリティ パスワードを変更して、すべてのノードをリブートする必要があります。詳細については、『<i>Command Line Interface Reference Guide for Cisco Unified Communications Solutions</i>』のこのコマンドの説明を参照してください。</p>
SMTP Location 入力値 :	<p>電子メールの発信に使用する SMTP サーバのホスト名または IP アドレスを入力します。</p> <p>ホスト名には英数字、ハイフン、ピリオドを使用できますが、先頭は英数字にする必要があります。</p> <p> (注) 電子通知を使用する場合、このフィールドは必須です。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > set smtp</p>
State 入力値 :	<p>サーバがある地域を入力します。</p> <p> (注) 入力した値は、証明書署名要求 (CSR) の生成に使用されます。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > set web-security</p>
Time Zone 入力値 :	<p>このフィールドは、現地時間帯と Greenwich Mean Time (GMT; グリニッジ標準時) からのオフセットを指定します。</p> <p>マシンがある場所に最も近い時間帯を選択します。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > set timezone</p>
Unit 入力値 :	<p>部署を入力します。</p> <p> (注) 入力した値は、証明書署名要求 (CSR) の生成に使用されます。</p>	<p>はい。次の CLI コマンドを使用して、インストール後に入力値を変更できます。</p> <p>CLI > set password admin</p>

Cisco Unified Communications Answer File Generator の使用方法

Cisco Unified Communications Answer File Generator は、Cisco Unity Connection の無人インストール用の応答ファイルを生成する Web アプリケーションです。個々の応答ファイルは、USB キーまたはフロッピー ディスクのルート ディレクトリにコピーされ、インストール プロセス中に Cisco Unity Connection の DVD とともに使用されます。

この Web アプリケーションでは、次の機能がサポートされています。

- パブリッシャ サーバとすべてのサブスクリバ サーバにおける無人インストール用応答ファイルの同時生成と保存
- データ入力 of 構文的な検証
- オンラインのヘルプおよびマニュアルの表示

使用方法について次の要件が適用されます。

- この Web アプリケーションでは、フレッシュ インストールのみがサポートされ、アップグレードはサポートされません。
- DHCP クライアントがパブリッシャ サーバで使用されていて、サブスクリバ サーバの応答ファイルも生成されている場合、パブリッシャ サーバの IP アドレスを指定する必要があります。

Cisco Unified Communications Answer File Generator には、次の URL からアクセスできます。

http://www.cisco.com/web/cuc_afg/index.html

Cisco Unified Communications Answer File Generator では、Internet Explorer バージョン 6.0 以降および Mozilla バージョン 1.5 以降がサポートされています。



(注)

Linux 2.4 互換の USB キーを使用する必要があります。コンフィギュレーション ファイル用に、Linux 2.4 互換としてプレフォーマットされている USB キーを使用することを推奨します。これらのキーは W95 FAT32 形式です。

インストール中のネットワーク エラーの処理

インストール プロセスでは、入力したネットワーク設定でサーバがネットワークに正常に接続できるかどうかインストール プログラムによって検証されます。接続できない場合、メッセージが表示され、次のいずれかのオプションを選択するよう要求するプロンプトが表示されます。

- **[RETRY]**: インストール プログラムがネットワークをもう一度検証しようとします。検証に再度失敗すると、エラー ダイアログボックスがもう一度表示されます。
- **[REVIEW (Check Install)]**: このオプションを使用すると、ネットワーク設定を確認して変更できます。エラーを検出すると、インストール プログラムはネットワーク設定ウィンドウに戻ります。
各ネットワーク ウィンドウの完了後にネットワークが検証されるので、メッセージが複数回表示されることがあります。
- **[HALT]**: インストールが一時停止します。インストール ログ ファイルを USB ディスクにコピーして、ネットワーク設定のトラブルシューティングに役立てることができます。
- **[IGNORE]**: インストールを続行します。ネットワーク エラーがログに記録されます。場合によっては、インストール プログラムがネットワークを複数回検証するので、このエラー ダイアログボックスが複数回表示されることがあります。ネットワーク エラーを無視するよう選択すると、インストールが失敗することがあります。

新しいオペレーティングシステムとアプリケーションのインストール

ここでは、オペレーティングシステムと Cisco Unity Connection アプリケーションをインストールする方法について説明します。オペレーティングシステムとアプリケーションは、1つのインストールプログラムを実行することでインストールします。このマニュアルでは、インストールプログラムを使用する手順を、次の主要なトピックに分けて説明します。

- [インストレーション ウィザード内の移動 \(P.2-23\)](#)
- [インストールの開始 \(P.2-23\)](#)
- [既存の設定情報の入力 \(P.2-26\)](#)
- [パッチの適用 \(P.2-26\)](#)
- [基本インストールの実行 \(P.2-30\)](#)
- [最初のノードの設定 \(P.2-32\)](#)
- [後続のノードの設定 \(P.2-33\)](#)

インストレーション ウィザード内の移動

インストレーション ウィザード内を移動する方法については、[表 2-9](#) を参照してください。

表 2-9 インストレーション ウィザード内の移動

目的	操作
次のフィールドに移動	Tab キーを押す
前のフィールドに移動	Alt + Tab キーを押す
オプションを選択	スペースバーまたは Enter キーを押す
リストをスクロール アップまたはスクロール ダウン	キーまたは キーを押す
前のウィンドウに移動	スペースバーまたは Enter キーを押して [Back] を選択 (可能な場合)
ウィンドウのヘルプ情報を表示	スペースバーまたは Enter キーを押して [Help] を選択 (可能な場合)

インストールの開始

インストールを開始するには、次の手順を実行します。



(注)

新しいサーバに Cisco Unity Connection ソフトウェアがプレインストールされているときは、最新の製品リリースでサーバを再イメージ化する場合を除いて、DVD からインストールする必要はありません。直接 [P.2-26](#) の「[既存の設定情報の入力](#)」に進みます。

手順

- ステップ 1** Answer File Generator で生成された設定情報が USB キーに格納されている場合は、ここで USB キーを差し込みます。
- ステップ 2** インストール DVD をトレイに挿入し、サーバを再起動して、DVD からブートします。サーバのブートシーケンスが完了すると、[DVD Found] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 メディア チェックを実行するには[Yes]を、メディア チェックを省略するには[No]を選択します。

メディア チェックはDVD の完全性を確認します。以前にDVD がメディア チェックに合格している場合は、メディア チェックを省略することができます。

ステップ4 [Yes] を選択してメディア チェックを実行すると、[Media Check Result] ウィンドウが表示されます。次の作業を実行します。

- a. [Media Check Result] に [Pass] と表示された場合は、[OK] を選択してインストールを続行します。
- b. メディア チェックでメディアの障害が検出された場合は、別のコピーを Cisco.com からダウンロードするか、別のDVD をシスコから直接入手してください。

ステップ5 システム インストーラによって、次のようなハードウェア チェックが実行され、システムが正しく設定されていることが確認されます。インストーラによってハードウェア設定が変更された場合、システムを再起動するよう要求するプロンプトが表示されます。リブート中、DVD はドライブに挿入したままにしておきます。

- 最初に、ドライバが正しいことが確認されます。次の警告が表示される場合があります。

No hard drives have been found. You probably need to manually choose device drivers for install to succeed. Would you like to select drivers now?

インストールを続行するには、[Yes] を選択します。

- 次に、ハードウェア プラットフォームがサポート対象かどうかを確認されます。サーバが正しいハードウェア要件を満たしていない場合、インストール プロセスは致命的なエラーで失敗します。この失敗が間違いであると考えられる場合は、エラーをキャプチャして、シスコのサポートに報告してください。
- 次に、RAID 設定値と BIOS 設定値が確認されます。



(注) この手順を繰り返す場合は、[Yes] を再度選択します。

ハードウェア チェックが完了すると、[Product Deployment Selection] ウィンドウが表示されます。

ステップ6 [Product Deployment Selection] ウィンドウで、インストールする製品を選択して、[OK] を選択します。次のオプションの中から選択できます。

- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco Unity Connection
- Cisco Unified Communications Manager Business Edition (Cisco Unified Communications Manager と Cisco Unity Connection を含む)



(注) 使用するサーバでサポートされる製品だけがリストに表示されます。



(注) 1つまたは複数の製品が、使用するサーバでサポートされていない場合、その情報も表示されません。Cisco Unity Connection が、使用するサーバでサポートされていないと表示される場合、サーバが Connection 7.x の仕様に適合していることを確認してください。
http://www.cisco.com/en/US/products/ps6509/products_data_sheets_list.html の『Cisco Unity Connection Supported Platforms List』の「Cisco Unity Connection Supported Servers」の該当するサーバモデルの表を参照してください（メモリのアップグレードが必要な場合は、インストールを再開する前に P.2-11 の「メモリのアップグレードまたはハードディスクの交換（特定のサーバのみ）」を参照してください）。

ステップ7 サーバにソフトウェアが現在インストールされている場合、[Overwrite Hard Drive] ウィンドウが開き、ハードドライブに存在する現在のソフトウェアのバージョンと、DVD に存在するバージョンが表示されます。インストールを続行するには [Yes] を、キャンセルするには [No] を選択します。

**注意**

[Overwrite Hard Drive] ウィンドウで [Yes] を選択した場合、ハードドライブに存在する既存のデータすべてが上書きされて失われます。

[Platform Installation Wizard] ウィンドウが表示されます。

ステップ8 適切なオプションを選択します。

- Cisco Unity Connection ソフトウェアがサーバにすでにインストールされている場合は、[Skip] をクリックし、P.2-26 の「既存の設定情報の入力」に進みます。
- 標準インストールを実行する場合は、[Proceed] をクリックし、この手順を続行します。
- 無人インストールを実行する場合は、[Skip] をクリックし、P.2-26 の「既存の設定情報の入力」に進みます。無人インストールの場合、USB キーまたはフロッピー ディスクに既存の設定情報を格納しておきます。
- ここでソフトウェアをインストールし、後で設定する場合は、[Skip] をクリックし、P.2-26 の「既存の設定情報の入力」に進みます。このインストール方法は、他の方法より時間がかかります。

ステップ9 次の手順に従って、実行するインストールタイプを選択します。

[Apply Additional Release] ウィンドウで、次のオプションのいずれかを選択します。

- インストール中にソフトウェアの最新のサービス リリースにアップグレードするには、[Yes] を選択します。P.2-26 の「パッチの適用」に進みます。
- この手順を省略するには、[No] を選択します。
- 前のウィンドウに戻るには、[Back] を選択します。

ステップ10 [Basic Install] ウィンドウで、[Continue] を選択して、DVD のソフトウェア バージョンをインストールするか、またはプレインストールされているソフトウェアを設定します。P.2-30 の「基本インストールの実行」に進みます。

既存の設定情報の入力

サーバに製品がプレインストールされている場合、または [Platform Installation Wizard] ウィンドウで [Skip] を選択した場合は、ここから開始します。

手順

ステップ 1 システムを再起動した後、[Preexisting Installation Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 Answer File Generator で作成された既存の設定情報がフロッピー ディスクか USB キーに格納されている場合は、ここでディスクまたは USB キーを挿入して、[Continue] を選択します。インストール プロセス中に、設定情報がインストレーション ウィザードに読み取られます。



(注) システムが新しいハードウェアを検出したというポップアップ ウィンドウが表示された場合は、任意のキーを押し、次のウィンドウで [Install] を選択します。

[Platform Installation Wizard] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [Proceed] を選択して、[Platform Installation Wizard] を続行します。

ステップ 4 次の手順に従って、実行するインストール タイプを選択します。

[Apply Additional Release] ウィンドウで、次のオプションのいずれかを選択します。

- インストール中にソフトウェアの最新のサービス リリースにアップグレードするには、[Yes] を選択します。P.2-26 の「パッチの適用」に進みます。
- この手順を省略するには、[No] を選択します。
- 前のウィンドウに戻るには、[Back] を選択します。

ステップ 5 [Basic Install] ウィンドウで、[Continue] を選択します。P.2-30 の「基本インストールの実行」に進みます。

パッチの適用

[Apply a Patch] ウィンドウで [Yes] を選択した場合、インストール ウィザードによって DVD に入っているソフトウェア バージョンがまずインストールされ、その後システムが再起動します。インストール中にアップグレードを行うには、Cisco.com から適切なアップグレード ファイルを入手する必要があります。



(注) フル パッチがあれば、サポート対象のあらゆる上位リリースへのアップグレードが可能です。ES または SR の場合は、同じ保守リリース内の最新サービス リリースへのアップグレードのみ可能です。

インストール プロセス中に、ローカル ディスク (DVD) あるいはリモート FTP サーバまたは SFTP サーバにあるアップグレード ファイルにアクセスできます。

手順

ステップ 1 [Install Upgrade Retrieval Mechanism Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 アップグレード ファイルの取得に使用するアップグレード取得メカニズムを選択します。

- **SFTP** : セキュア ファイル転送プロトコル (SFTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。P.2-28 の「リモート サーバからのアップグレード」に進みます。
- **FTP** : ファイル転送プロトコル (FTP) を使用して、リモート サーバからアップグレード ファイルを取得します。P.2-28 の「リモート サーバからのアップグレード」に進みます。
- **LOCAL** : ローカル DVD からアップグレード ファイルを取得します。P.2-27 の「ローカル ディスクからのアップグレード」に進みます。

ローカル ディスクからのアップグレード

ローカル ディスクからアップグレードするには、適切なパッチ ファイルを Cisco.com からダウンロードし、それを使用してアップグレード DVD を作成する必要があります。アップグレード ファイルから、DVD 上に ISO イメージを作成する必要があります。ISO ファイルを DVD にコピーしただけでは機能しません。

手順

ステップ 1 [Local Patch Configuration] ウィンドウが表示されたら、必要に応じてパッチ ディレクトリとパッチ名を入力し、[OK] を選択します。

[Install Upgrade Patch Selection Validation] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 このウィンドウには、DVD にある、使用可能なパッチ ファイルが表示されます。このパッチでシステムを更新するには、[Continue] を選択します。

ステップ 3 インストールするアップグレード パッチを選択します。パッチがインストールされ、システムが再起動して、アップグレードされたソフトウェア バージョンが動作します。

システムの再起動後に、[Preexisting Configuration Information] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 インストールを続行するには、[Proceed] を選択します。

[Platform Installation Wizard] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 インストールを続行するには [Proceed] を、停止するには [Cancel] を選択します。

[Proceed] を選択した場合は、[Apply Patch] ウィンドウが表示されます。ステップ 6 に進みます。

[Cancel] を選択した場合は、システムが停止し、サーバの電源を安全にオフにできます。

ステップ 6 [Apply Patch] ウィンドウが表示されたら、[No] を選択します。

ステップ7 [Windows Upgrade] ウィンドウが表示されます。

ステップ8 [No] を選択し、P.2-30 の「基本インストールの実行」に進みます。

リモートサーバからのアップグレード

リモートサーバからアップグレードするには、Cisco.com から適切なパッチ ファイルをダウンロードし、サーバがアクセスできる FTP サーバまたは SFTP サーバに保存する必要があります。

リモートサーバへの FTP 接続または SFTP 接続を介してアップグレードを行う場合は、サーバがネットワークに接続できるよう、まずネットワーク設定値を設定する必要があります。

手順

ステップ1 [Auto Negotiation Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 インストール プロセスで、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット NIC の速度と二重設定を自動的に設定できます。この設定は、インストール後に変更可能です。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには [Yes] を選択します。
[MTU Configuration] ウィンドウが表示されます。 **ステップ4** に進みます。
- 自動ネゴシエーションを無効にするには [No] を選択します。 [NIC Speed and Duplex Configuration] ウィンドウが表示されます。 **ステップ3** に進みます。

ステップ3 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度と二重設定を手動で選択し、[OK] を選択して続行します。

[MTU Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ4 [MTU Configuration] ウィンドウで、MTU サイズをオペレーティングシステムのデフォルト値から変更できます。

最大伝送ユニット (MTU) は、このホストがネットワーク上で伝送する最大パケットをバイト単位で表します。ネットワークの MTU 設定値がわからない場合は、デフォルト値を使用してください。



注意

MTU サイズの設定が正しくない場合は、ネットワーク パフォーマンスが低下するおそれがあります。

- デフォルト値 (1500 バイト) を受け入れるには、[No] を選択します。
- MTU サイズをオペレーティングシステムのデフォルト値から変更するには、[Yes] を選択し、新しい MTU サイズを入力して、[OK] を選択します。

[DHCP Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 ネットワーク設定では、ノードまたはゲートウェイにネットワーク固定 IP アドレスを設定するか、Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用するかを選択できます。

- ネットワークで DHCP サーバが設定されていて、DHCP を使用する場合は、[Yes] を選択します。インストール プロセスがネットワーク接続の検証を試みます。ステップ 8 に進みます。
- ノードに固定 IP アドレスを設定する場合は、[No] を選択します。[Static Network Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 DHCP を使用しない場合は、固定ネットワーク設定値を入力し、[OK] を選択します。フィールドの説明については、表 2-8 を参照してください。

[DNS Client Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 DNS を有効にするには、[Yes] を選択して DNS クライアント情報を入力し、[OK] を選択します。フィールドの説明については、表 2-8 を参照してください。

システムによってネットワークが設定され、接続が確認されます。その後、[Remote Patch Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 リモート ファイル サーバのロケーションおよびログイン情報を入力します。システムがリモートサーバに接続され、使用可能なアップグレード パッチの一覧が取得されます。

アップグレード ファイルが Linux サーバまたは Unix サーバにある場合は、ディレクトリパスの先頭にフォワード スラッシュを入力する必要があります。たとえば、アップグレード ファイルが patches ディレクトリにある場合、/patches と入力する必要があります。

アップグレード ファイルが Windows サーバにある場合は、FTP サーバまたは SFTP サーバに接続するため、次の適切な構文を使用します。

- パスはフォワード スラッシュ (/) で開始し、パス全体でフォワード スラッシュを使用します。
- パスはサーバ上の FTP または SFTP のルート ディレクトリから始まる必要があるため、ドライブ文字 (C: など) で始まる Windows の絶対パスは入力できません。

[Install Upgrade Patch Selection] ウィンドウが表示されます。

ステップ 9 インストールするアップグレード パッチを選択します。パッチがダウンロード、解凍、インストールされ、システムが再起動して、アップグレードされたソフトウェアバージョンが動作します。

システムの再起動後に、[Preexisting Configuration Information] ウィンドウが表示されます。

ステップ 10 インストールを続行するには、[Proceed] を選択します。

[Platform Installation Wizard] ウィンドウが表示されます。

ステップ 11 インストールを続行するには [Proceed] を、停止するには [Cancel] を選択します。

[Proceed] を選択した場合は、[Apply Patch] ウィンドウが表示されます。ステップ 12 に進みます。

[Cancel] を選択した場合は、システムが停止し、サーバの電源を安全にオフにできます。

ステップ 12 [Apply Patch] ウィンドウが表示されたら、[No] を選択します。

ステップ 13 [Windows Upgrade] ウィンドウが表示されます。

ステップ 14 [No] を選択して、P.2-30 の「基本インストールの実行」に進みます。

基本インストールの実行

手順

ステップ 1 [Timezone Configuration] が表示されたら、サーバに適した時間帯を選択して [OK] を選択します。

[Auto Negotiation Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 インストール プロセスで、自動ネゴシエーションを使用して、イーサネット NIC の速度と二重設定を自動的に設定できます。この設定は、インストール後に変更可能です。

- 自動ネゴシエーションを有効にするには [Yes] を選択して、[ステップ 5](#) に進みます。
[MTU Configuration] ウィンドウが表示されます。



(注) このオプションを使用するには、ハブまたはイーサネット スイッチが自動ネゴシエーションをサポートしている必要があります。

- 自動ネゴシエーションを無効にするには [No] を選択して、[ステップ 3](#) に進みます。
[NIC Speed and Duplex Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 自動ネゴシエーションを無効にした場合は、ここで適切な NIC 速度と二重設定を手動で選択し、[OK] を選択して続行します。

[MTU Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [MTU Configuration] ウィンドウで、MTU サイズをオペレーティングシステムのデフォルト値から変更できます。

最大伝送ユニット (MTU) は、このホストがネットワーク上で伝送する最大パケットをバイト単位で表します。ネットワークの MTU 設定値がわからない場合は、デフォルト値 (1500 バイト) を使用してください。



注意

MTU サイズの設定が正しくない場合は、ネットワーク パフォーマンスが低下するおそれがあります。

- デフォルト値 (1500 バイト) を受け入れるには、[No] を選択します。
- MTU サイズをオペレーティングシステムのデフォルト値から変更するには、[Yes] を選択し、新しい MTU サイズを入力して、[OK] を選択します。

[DHCP Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ5 ネットワーク設定では、ノードにネットワーク固定 IP アドレスを設定するか、DHCP を使用するかを選択できます。

- ネットワークで DHCP サーバが設定されていて、DHCP を使用する場合は、[Yes] を選択します。ネットワークが再開し、[Administrator Login Configuration] ウィンドウが表示されます。ステップ8に進みます。
- ノードに固定 IP アドレスを設定する場合は、[No] を選択します。[Static Network Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ6 DHCP を使用しない場合は、固定ネットワーク設定値を入力し、[OK] を選択します。フィールドの説明については、表 2-8 を参照してください。

[DNS Client Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ7 DNS を有効にするには、[Yes] を選択して DNS クライアント情報を入力し、[OK] を選択します。フィールドの説明については、表 2-8 を参照してください。

新しい設定情報でネットワークが再開し、[Administrator Login Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ8 表 2-8 を参照して、管理者ログインとパスワードを入力します。



(注) 管理者ログインは、先頭が英文字で 6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。管理者ログインは、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理、コマンドライン インターフェイス、および Disaster Recovery System へのログインに必要です。

[Certificate Information] ウィンドウが表示されます。

ステップ9 証明書署名要求情報を入力し、[OK] を選択します。

[First Node Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ10 このサーバを Connection クラスタ内の最初のノード (パブリッシャ サーバ) 後続のノード (サブスライバ サーバ) または Connection クラスタのないサーバとして設定できます。

- このサーバを Connection クラスタ内の最初のノード、または Connection クラスタのないサーバとして設定するには、[Yes] を選択して P.2-32 の「最初のノードの設定」に進みます。
- このサーバをクラスタ内の後続のノードとして設定するには、[No] を選択して P.2-33 の「後続のノードの設定」に進みます。

最初のノードの設定

基本インストール完了後に、次の手順を実行し、Connection クラスタ内の最初のノード（パブリック サーバ）または Connection クラスタのないサーバとしてサーバを設定します。

手順

ステップ 1 [Network Time Protocol Client Configuration] ウィンドウが表示されます。

システムの時刻を正確にするために、最初のノードでは外部 NTP サーバを使用することを推奨します。外部 NTP サーバがストラタム 9 またはそれより上位（つまり、ストラタム 1 ~ 9）であることを確認してください。クラスタ内の後続のノードは、最初のノードから時刻を取得します。

ステップ 2 外部 NTP サーバを設定するか、システムの時刻を手動で設定するかを選択します。

- 外部 NTP サーバを設定するには、[Yes] を選択し、1 つ以上の NTP サーバの IP アドレス、NTP サーバ名、または NTP サーバ プール名を入力します。最大 5 つの NTP サーバを設定できます。3 つ以上を使用することを推奨します。[Proceed] を選択して、インストールを続行します。システムは NTP サーバに接続して、自動的にハードウェア クロックの時刻を設定します。



(注) [Test] ボタンが表示されている場合は、[Test] を選択して、NTP サーバにアクセスできるかどうかを確認できます。

- システムの時刻を手動で設定するには、[No] を選択し、適切な日付と時刻を入力して、ハードウェア クロックを設定します。[OK] を選択して、インストールを続行します。

[Database Access Security Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 表 2-8 を参照してセキュリティ パスワードを入力します。



(注) セキュリティ パスワードは、先頭が英数字で 6 文字以上にする必要があります。英数字、ハイフン、および下線を使用できます。このパスワードによって、ノード間の通信が認証されます。このパスワードは、クラスタ内のすべてのノードで同一にする必要があります。

[SMTP Host Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 SMTP サーバを設定する場合は、[Yes] を選択して、SMTP サーバ名を入力します。



(注) 特定のプラットフォーム機能を使用するように SMTP サーバを設定する必要があります。ただし、プラットフォーム GUI または コマンドライン インターフェイスを使用して、後で SMTP サーバを設定することもできます。

ステップ 5 [OK] を選択します。[Application User Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 表 2-8 を参照してアプリケーション ユーザ名とパスワードを入力し、確認のためにもう一度パスワードを入力します。

ステップ7 [OK] を選択します。[Platform Configuration Confirmation] ウィンドウが表示されます。

ステップ8 インストールを続行するには[OK]を、プラットフォーム設定を変更するには[Back]を選択します。

ソフトウェアがインストールおよび設定されます。DVD ドライブがイジェクトされ、サーバがリブートします。DVD を再度挿入しないでください。

ステップ9 インストール プロセスが完了すると、管理者アカウントとパスワードでログインするよう要求するプロンプトが表示されます。

ステップ10 P.2-35 の「インストール後作業」に示すインストール後作業を完了します。

後続のノードの設定

クラスタ内の後続のノードを設定するには、次の手順を実行します。



注意

後続のノード（サブスクリバサーバ）をインストールする前に、CUC の管理を使用して、最初のノード（パブリッシャサーバ）上で後続のノードの設定を行う必要があります。『Cisco Unity Connection クラスタコンフィギュレーションアドミニストレーションガイド7.x』の「Cisco Unity Connection クラスタの設定」の章を参照してください。

手順

ステップ1 最初のノードでネットワーク タイム プロトコルを設定した場合、後続のノードをインストールする前に、最初のノードが NTP サーバと同期していることを確認します。最初のノードのコマンドライン インターフェイスから、`utils ntp status` と入力します。出力結果で、最初のノードが NTP サーバと同期していることを確認します。



(注) 最初のノードが NTP サーバと同期していない場合は、後続のノードのインストールが失敗します。

ステップ2 [First Node Configuration] ウィンドウで、警告を読み、最初のノードが正しく設定されていることを確認します。後続のノードのインストールを続行するには、[OK] をクリックします。

[Network Connectivity Test Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 後続のノードのインストール中に、後続のノードが最初のノードに接続できることが確認されます。

- ネットワーク接続の確認成功後にインストールを中断するには、[Yes] を選択します。
- 中断したインストールを続行するには、[No] を選択します。

[First Node Access Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 最初のノードの接続情報を入力し、[OK] を選択します。

ネットワーク接続が確認されます。

ネットワーク接続の確認成功後に中断を選択した場合は、[Successful Connection to First Node] ウィンドウが表示されます。[Continue] を選択します。



(注) ネットワーク接続テストが失敗した場合は、システムが必ず停止するため、前に戻ってパラメータ情報を再入力できます。

[SMTP Host Configuration] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 SMTP サーバを設定する場合は、[Yes] を選択して、SMTP サーバ名を入力します。



(注) 特定のオペレーティングシステム機能を使用するには、SMTP サーバを設定する必要があります。ただし、オペレーティングシステム GUI またはコマンドライン インターフェイスを使用して、後で SMTP サーバを設定することもできます。

[Platform Configuration Confirmation] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 ソフトウェアのインストールを開始するには [OK] を、設定を変更するには [Back] を選択します。

ステップ 7 インストール プロセスが完了すると、管理者アカウントとパスワードでログインするよう要求するプロンプトが表示されます。

ステップ 8 P.2-35 の「インストール後作業」に示すインストール後作業を完了します。

インストール後作業

サーバに Cisco Unity Connection をインストールした後、使用開始前にいくつかのインストール後作業を実行する必要があります。作業の一覧は、表 2-10 を参照してください。



(注) Web アプリケーションにアクセスするには、Cisco Unity Connection サーバにネットワーク経由でアクセスできるコンピュータから Web ブラウザを使用する必要があります。

表 2-10 インストール後作業

インストール後作業	注意事項
Cisco Unity Connection アプリケーション ユーザとしてログインし、アプリケーション ユーザ パスワードを変更します。	P.2-35 の「デフォルトのアプリケーション ユーザパスワードの変更」を参照してください。
実行する Cisco Unity Connection 機能サービスをアクティブにします。 機能サービスをアクティブにする前に、必要なアクティブ化前作業を実行する必要があります。サービスのアクティブ化の要件については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。	『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。
バックアップ設定値を設定します。 Cisco Unity Connection データのバックアップは、毎日必ず実行してください。	『Disaster Recovery System アドミニストレーションガイド』を参照してください。
必要に応じて、実際に使用するネットワーク管理システムを設定します。	『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

デフォルトのアプリケーション ユーザ パスワードの変更

インストール プロセスでは、すべてのアプリケーション ユーザ パスワードが、インストール中に入力したアプリケーション ユーザ パスワードと同一のものに設定されます。Cisco Unity Connection の管理にログインし、これらのパスワードを変更することを推奨します。パスワードを変更する手順については、『Cisco Unity Connection システム アドミニストレーションガイド』を参照してください。

サービスのアクティブ化

すべてのサービスをサーバにインストールしても、Cisco Unified Serviceability を使用して、実行するサービスを手動でアクティブにしなければならない場合があります。サービスに関する推奨事項や詳細については、『Cisco Unified Serviceability アドミニストレーションガイド』を参照してください。

ログ ファイルの検査

インストールで問題が発生した場合は、コマンドライン インターフェイスで次のコマンドを入力することで、インストール ログ ファイルを取得して検査できます。

インストール ログ ファイルのリストをコマンドラインから取得するには、次のように入力します。

```
CLI>file list install *
```

ログ ファイルをコマンドラインから表示するには、次のように入力します。

```
CLI>file view install log_file
```

ここで、*log_file* はログ ファイル名です。

Real-Time Monitoring Tool を使用して、ログを表示することもできます。Real-Time Monitoring Tool の使用およびインストールの詳細については、『*Cisco Unified Serviceability アドミニストレーション ガイド*』を参照してください。



INDEX

い

インストール

- 交換ハード ディスク (特定のサーバ) 2-11
- 必要なタスクの概要 1-2
- メモリ アップグレード (特定のサーバ) 2-11

は

- ハード ディスク、交換 (特定のサーバ) 2-11
- ハード ディスクの交換 (特定のサーバ) 2-11

め

- メモリ、アップグレードのインストール (特定のサーバ) 2-11